

## 第2回 舟形町総合戦略推進会議

○ 日時：平成27年7月23日（木）

15:00～17:00

○ 場所：舟形町役場3階会議室

### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. あいさつ

#### 3. 協 議

(1) 舟形町総合戦略 骨子（素案）

(2) 舟形町人口ビジョン検討資料

(3) 「地方創生に関するアンケート」調査結果（速報）

(4) 各委員からの事前アンケート調査も含めたご意見について

(5) その他

#### 4. 閉 会

## 第2回 舟形町総合戦略推進会議

# 配布資料一覧

- 資料1 舟形町総合戦略推進会議 席次表
- 資料2 舟形町総合戦略推進会議 委員名簿
- 資料3 「舟形町人口ビジョン」及び「舟形町総合戦略」策定の体制
- 資料4 舟形町総合戦略推進会議 設置要綱
- 資料5 舟形町総合戦略推進会議等の今後の日程
- 資料6 舟形町総合戦略 骨子（素案）
- 資料7 舟形町人口ビジョン検討資料
- 資料8 「地方創生に関するアンケート」調査結果（速報）
  
- 参照1 やまがた創生総合戦略（仮称）骨子（案）
- 参照2 山形県人口ビジョンにおける「人口の将来展望」の検討について

# 舟形町総合戦略推進会議 席次表

資料 1

舟形町営農推進顧問  
悪七 幸喜 様

舟形町長  
奥山 知雄 様

小国川漁業協同組合  
組合長  
高橋 光明 様

もがみ南部商工会  
舟形支部長  
伊藤 宏 様

南舟形マッシュルーム  
代表取締役社長  
長澤 光芳 様

新庄もがみ農業協同組合  
代表理事組合長  
安食 賢一 様

舟形町産業経済振興戦略  
略監  
舟形町学芸員  
野村 知義 様

舟形町農事実行組合  
組合長代表  
叶内 栄一 様

舟形町認定農業者会  
会長  
星川 俊則 様

東北公益文科大学  
准教授  
佐野 治 様

会長	
副会長	副会長
事務局	

舟形町町内会長連絡協議会  
副会長  
豊岡 信尋 様

最上総合支庁  
総務企画部地域振興課  
課長  
井上 宏彦 様

荘内銀行新庄支店  
執行役員新庄支店長  
伊藤 武仁 様

きらやか銀行新庄支店  
支店長  
新野 浩樹 様

連合山形  
新庄最上地域協議会  
事務局長  
高橋 忠勝 様

山形新聞社  
最北総支社長  
松本 昭弘 様

舟形町まちづくり審議会  
会長  
阿部 弘明 様

舟形町PTA連絡協議会  
会長  
成澤 浩一 様

## 舟形町総合戦略推進会議 委員名簿

資料 2

### (産業界)

伊 藤 宏 (もがみ南部商工会 舟形支部長)  
 谷 村 英 一 (株式会社キリウ山形 代表取締役)  
 長 澤 光 芳 (有限会社舟形マッシュルーム 代表取締役社長)  
 安 食 賢 一 (新庄もがみ農業協同組合 代表理事組合長)  
 野 村 知 義 (舟形町産業経済振興戦略監、舟形町学芸員)  
 高 橋 光 明 (小国川漁業協同組合 組合長)  
 悪 七 幸 喜 (舟形町営農推進顧問)  
 叶 内 栄 一 (舟形町農事実行組合 組合長代表)  
 星 川 俊 則 (舟形町認定農業者会 会長)

### (学会)

佐 野 治 (東北公益文科大学 准教授)

### (官界)

井 上 宏 彦 (山形県最上総合支庁総務企画部地域振興課 課長)

### (金融機関)

伊 藤 武 仁 (荘内銀行新庄支店 執行役員新庄支店長)  
 新 野 浩 樹 (きらやか銀行新庄支店 支店長)

### (労働団体)

渡 辺 裕 一 (連合山形新庄最上地域協議会 議長)  
 ※代理出席 高 橋 忠 勝 (事務局長)

### (言論機関)

松 本 昭 弘 (山形新聞社 最北総支社長)

### (住民代表)

阿 部 弘 明 (舟形町まちづくり審議会 会長)  
 豊 岡 信 尋 (舟形町町内会長連絡協議会 副会長)  
 阿 部 富 美 (舟形町男女共同参画推進計策定委員会 会長)  
 成 澤 浩 一 (舟形町PTA連絡協議会 会長)  
 沼 澤 愛 里 子 (舟形町母親委員会 会長)

事務局 沼 澤 繁 夫 (舟形町まちづくり課 課長)  
 鍛 冶 紀 邦 (舟形町まちづくり課企画調整班 班長)  
 沼 澤 友 幸 (舟形町まちづくり課政策推進室 主任)

## 舟形町総合戦略 骨子（素案）

---

平成27年7月

## (1) 総合戦略の位置づけについて

### ① 総合計画を補完する戦略

本戦略は、舟形町の最上位計画である「第6次舟形町総合発展計画」を補完するものと位置づける。

### ② 国及び県の総合戦略を勘案した戦略

本戦略は、国や県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、さらに「舟形町人口ビジョン」を踏まえ、まち・ひと・しごとの創生に向け、本町の実情に応じた今後5年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものである。

特に、山形県全体の特性や課題等を重視し、県の「やまがた創生総合戦略」を勘案し、人口減少に歯止めをかける戦略と、人口減少社会に対応した地域社会を構築する戦略を同時に推進する視点を基本とした戦略とする。

## (2) 総合戦略の構成について

### ①基本姿勢

県の「やまがた創生総合戦略」を勘案し、基本的姿勢を設定する。

### ②基本目標

「舟形町総合発展計画」及び県の「やまがた創生総合戦略」を勘案し、基本目標及び数値目標（アウトカム）を設定する。

### ③施策の基本的方向

「舟形町総合発展計画」及び県の「やまがた創生総合戦略」を勘案し、基本目標の達成に向けて取り組むべき施策の基本的方向を記載する。

### ④具体的な施策と各施策における重要業績評価指標（KPI）

施策の基本的方向に基づいて実施する具体的な施策を記載するとともに、施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI・原則としてアウトカム）を設定する。

### ⑤アクションプラン

以上の①～④を総合戦略として策定し、その後、具体的な事業を記載したアクションプランを策定する。

### 1. 舟形町で「働きたい」 ～魅力ある”しごと”を創る～

農林水産業等の地場産業の強化や、工業団地を核にした企業誘致により雇用力の強化を図る。

国の基本目標1：地域における安定した雇用を創出する

県の基本目標1：豊かな山形の資源を生かして雇用創出

### 2. 舟形町に「住みたい・帰ってきたい」 ～選ばれる”まち”を創る～

転入インセンティブ創出により人の流れを促進するため、主にUJ1ターン策を拡充し、新たな定住の流れを創り出す。

国の基本目標2：地方への新しい人の流れを創る

県の基本目標2：山形に住もう・帰ろうプロジェクトを推進

### 3. 舟形町で「産み、育てたい」 ～若い”ひと”を応援する～

出会い・結婚・出産・子育てのトータルな支援体制を充実させるとともに、若者人口増加のための住環境の基盤づくりを行う。

国の基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

県の基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現

### 4. 舟形町で「暮らし続けたい」～”ひと”をつなぐ安全・安心な地域を創る～

住民の支え合いや交流による暮らしやすい地域コミュニティの形成と、地域連携による経済・生活圏を形成する。

国の基本目標4：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

県の基本目標4：安心と活力ある地域を創出

### Ⅲ

## 施策の基本的方向

### 1. 舟形町で「働きたい」 ～魅力ある”しごと”を創る～

#### (1) 数値目標(例)

意欲のある農家、観光客の入込人数

雇用数、起業件数、特産品開発、ホームページへのアクセス数

#### (2) 講ずべき施策に関する基本的方向及び具体的な施策

##### ～重点項目～

○新規就農者や営農法人の支援体制を充実するとともに、元気な農家を育成する。

[主な施策：新規就農支援、営農法人の設立支援、集落営農組織の設立、営農指導の拡充、耕作放棄地への対策など]

○園芸作物の導入推進により農業の高付加価値化を促進する。

[主な施策：園芸作物栽培の支援、6次産業化の推進による特産加工品の開発など]

○企業等の一般法人の農業参入を促進する。

[主な施策：野菜工場整備の検討など]

○舟形工業団地等に加え、広域的に企業進出・増設を促進する。

[主な施策：既存企業への支援拡大、企業誘致の実施、新庄中核工業団地への支援と雇用助成の充実など]

○商工団体とも連携しながら、町内の起業・創業を促進し、きめ細やかな支援を行う。

[主な施策：起業・事業展開支援など]

○「福祉のまち」宣言による福祉の充実による雇用の拡大を図る。

[主な施策：ふるさと特養整備の事業化、医療・福祉人材育成のための奨学金の創設など]

○若者や女性の就業や再就職を促進する。

[主な施策：能力開発に関する支援、資格取得への支援など]

○観光客が町内観光を楽しむとともに地元を経済的効果を生み出せるように環境整備する。

[主な施策：地域観光基盤の整備、オリジナル土産物の開発など]

##### ～その他、想定されるもの～

○木質バイオマスの取組等により林業の高付加価値化を促進する。

[主な施策：森林資源活用のための活動団体支援など]

○観光資源の磨きあげとともに新たな魅力を創出して、観光地としての魅力の向上を図る。

[主な施策：縄文の女神記念公園の情報発信、ふながた若鮎まつりの充実など]

○自然、文化、産業等を活かした体験型観光メニューを開発するとともに、民泊の体制を構築し、観光客の増加を図る。

[主な施策：田舎まるごと体験観光と民泊の推進など]

○町の観光を差別化し、インパクトのある情報発信を行う。

[主な施策：舟形町イメージ戦略、プロモーションビデオの制作など]

## 2. 舟形町に「住みたい・帰ってきたい」 ～選ばれる”まち”を創る～

### (1) 数値目標(例)

移住者数(U・Jターン)

### (2) 講ずべき施策に関する基本的方向及び具体的な施策

#### ～重点項目～

○地域おこし協力隊を積極的に受け入れ、移住定住を目指すとともに、積極的な情報発信を行う。

[主な施策：地域おこし協力隊の拡充など]

○小中学校においてふるさと教育を実践するとともに、高校生以降も町に関心を持ち続けられるような仕組みを構築する。

[主な施策：Uターン者向け奨学金の創設、若者の人材育成・仲間づくりなど]

○移住者向けの仕事や住宅を確保し受入環境の整備を図るとともに、大都市圏からのアクティブシニアの移住の受け入れを検討する。

[主な施策：舟形町版CCRCの検討(サービス付き高齢者住宅等)、移住者向け住宅の整備の検討、空き家を活用したお試し体験住宅整備の検討、ふるさと特養整備の事業化など]

○町出身者などに町の情報を発信して、将来的なU・Jターンにつなげる取組みを行う。

[主な施策：東京友の会等との連携、ふるさと納税者へ情報発信など]

#### ～その他、想定されるもの～

○移住希望者が必要とする情報を一元的に収集・提供する体制を整備するなど、積極的な情報発信を行う。

[主な施策：移住相談者への情報提供システムの構築など]

○学生等に舟形町を社会的課題解決のフィールドワークの場として活用いただくなど、将来的な移住・定住に結び付く取組みを行う。

[主な施策：県内の大学との連携、エリアキャンパスの推進など]

### 3. 舟形町で「産み、育てたい」 ～若い”ひと”を応援する～

#### (1) 数値目標(例)

保育所の園児数、出生者数

#### (2) 講ずべき施策に関する基本的方向及び具体的な施策

##### ～重点項目～

○婚活イベントなど若者の出会いの場を積極的に創出する。

[主な施策：結婚サポートセンターの充実、婚活イベント等の充実、結婚祝い金など]

○保育サービスの負担軽減等により子育ての経済的負担の軽減を図る。

[主な施策：保育料等の保育利用に係る費用助成など]

○保育士の確保と資質の向上を図りつつ、多様化する保育ニーズに適切に対応するとともに、保育内容を充実する。

[主な施策：保育所の民営化、保育士の確保・資質向上、多様化する保育ニーズへの対応、子育て支援センター及び未満児保育の充実、0～1歳児の乳幼児保育の拡充など]

○保小中一貫教育を推進し、地域に育ち、地域を育てる町民の育成を推進する。

[主な施策：ヴィーナズプランの推進、施設近接型保小中一貫校の整備への検討など]

○子育て世代向けの魅力的な住環境を整備する。

[主な施策：若者向け住宅の整備、子育て支援住宅の整備、民間アパート整備促進など]

○舟形町男女共同参画推進計画を推進し、男女がともにいき活躍する舟形の実現を目指す。

[主な施策：男女共同参画社会実現に向けた啓発・学習活動の推進、山形いきいき子育て応援企業登録促進など]

##### ～その他、想定されるもの～

○妊娠から出産、子育てに向けて親の正しい知識の習得を支援する。

[主な施策：親育ち支援]

○若者のキャリア教育や地域活動を促進するとともに、ライフプランづくりに向けた啓発を行う。

[主な施策：キャリア教育の推進、思春期の教育、啓発セミナーの開催など]

○子育ての総合的な相談支援体制を構築するとともに、子育て支援サイトにより情報提供の充実を図る。

[主な施策：相談支援体制の構築、子育て支援サイトの開設]

○児童の放課後の居場所づくりなど子育て環境の充実を図る。

[主な施策：児童の放課後の居場所づくり、町営による学習塾の検討など]

○学校教育におけるICTの活用を推進する。

[主な施策：ICT活用教育の検討]

○小中学校においてふるさと教育を推進する。

[主な施策：地域活動・人材育成による学習の拡充]

## 4. 舟形町で「暮らし続けたい」～”ひと”をつなぐ安全・安心な地域を創る～

### (1) 数値目標(例)

自主防災組織数

### (2) 講ずべき施策に関する基本的方向及び具体的な施策

#### ～重点項目～

○雪に強いまちづくりを推進する。

[主な施策：除排雪体制の強化、消流雪施設の整備の検討、高齢者世帯への克雪対策など]

○縄文の女神を核とした活動を促進し、地域の活性化を図る。

[主な施策：西ノ前遺跡周辺整備、道の駅整備の検討、県立博物館分館構想の検討など]

○高齢者を中心とする地域の交流拠点として基幹となる集落に生活・福祉サービスを集約し、周辺集落との交通ネットワーク等で結ぶ「小さな拠点」を形成する。

[主な施策：「小さな拠点」整備の検討、雪に強い集落の整備の検討、地域おこし協力隊・集落支援員の活用など]

○地域包括ケアシステムにより、医療介護サービスを安心して利用できる体制を構築する。

[主な施策：認知症対策の強化、障がい者の就業支援など]

○高齢者の健康づくりや社会参加を促進し、生涯現役社会づくりを推進する。

[主な施策：生活習慣病予防強化、元気な高齢者の活躍支援、高齢者向け住宅の整備など]

○交通や買い物など生活支援サービスを確保しつつ、集落機能の維持を図る。

[主な施策：集落モデル事業、公共交通体系の見直しなど]

○広報強化等により消防団員の確保を図るとともに、企業等の協力を得ながら自主防災組織の強化を図る。

[主な施策：消防団員の確保、自主的防災組織の充実など]

○県や他市町村との広域連携を促進

[主な施策：山形県との連携、新庄最上定住自立圏による事業実施など]

○地域資源や文化を通して地域への愛着・誇りを醸成する。

[主な施策：最上小国川清流未来振興計画の推進など]

○地域コミュニティの維持・構築を図る

[主な施策：地域課題・ニーズの発掘。自助・共助・公助による協働のまちづくりの推進など]

#### ～その他、想定されるもの～

○住民、特に若者が主体的に企画・実施するイベントを創出する。

[主な施策：若者による地域活性化の取組の支援など]

○町内会単位で県内外の大学生、企業などとの多様な交流を促進する。

[主な施策：地域間交流の促進など]

○道路、橋梁、上下水道などの公共インフラについて長寿命化計画に基づいて適正な管理を行うとともに、公共施設の共同利用や再活用など効率的な管理・活用を行う。

[主な施策：道路、橋梁等の老朽化対策事業、上下水道事業の老朽化対策など]

# 舟形町

## 人口ビジョン検討資料

### (案)

I	人口動向の分析	1
1.	総人口の動向	2
2.	年齢別人口の動向	4
3.	人口動態	6
4.	要因別分析	7
5.	その他の分析	11
6.	現状の動向からみた課題	19
II	人口シミュレーション	21
1.	人口推計について	22
2.	人口変動の3要素のシミュレーション	28
3.	人口推計シミュレーション	33
4.	シミュレーション別推計結果(再掲)	41



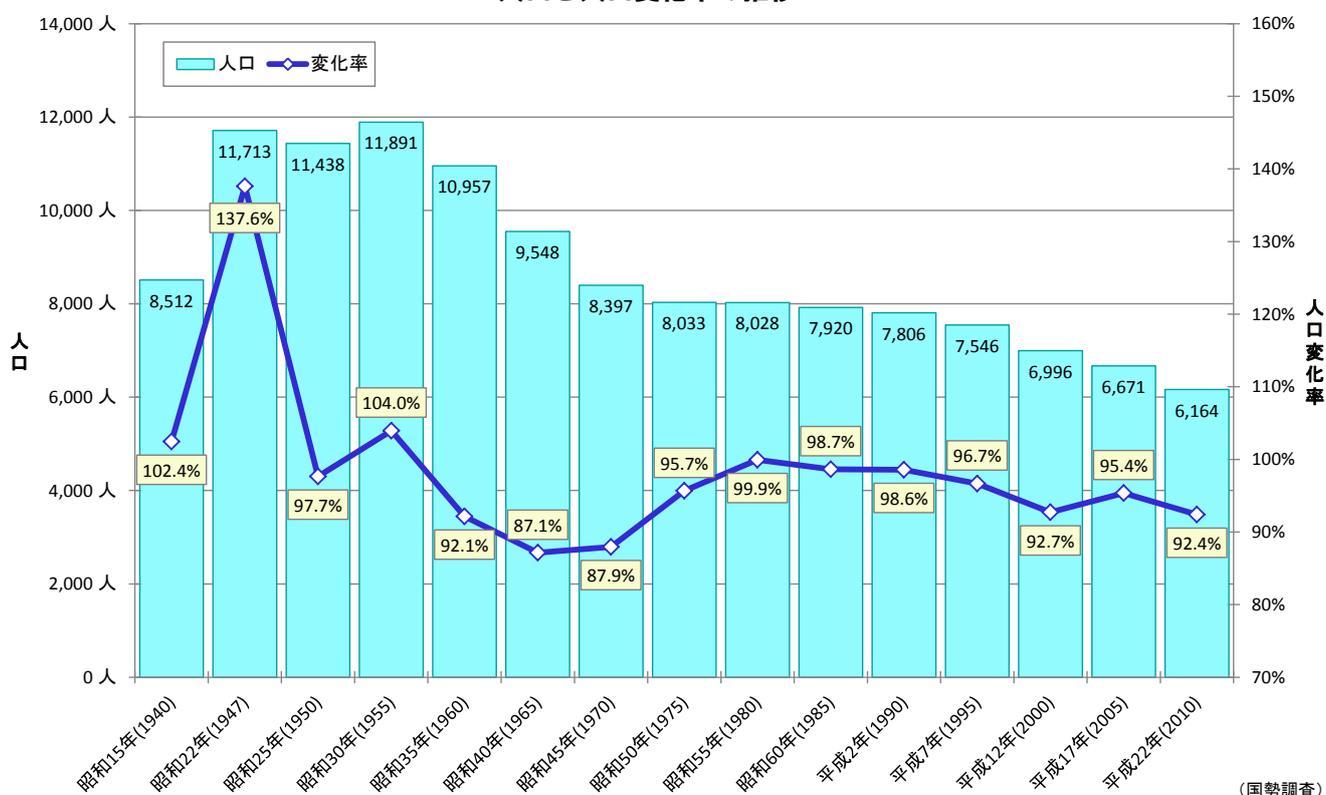
# I 人口動向の分析

# 1. 総人口の動向

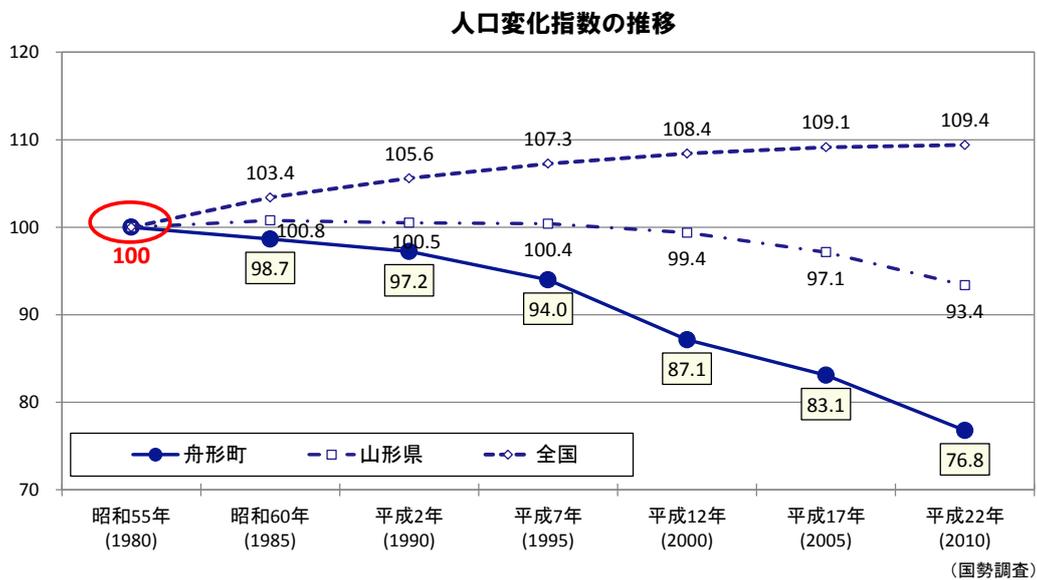
舟形町では、他の多くの自治体と同様、戦後の復員やベビーブームに伴って昭和 22 年に人口が大きく増加し、昭和 15 年の 8,512 人から 11,713 人となっています。その後、高度経済成長期を含む昭和 35 年から昭和 50 年までの 15 年間で大きく減少し、昭和 50 年には 8,033 人となっています。この原因は高度経済成長期に伴い、首都圏等他地域への人口流出があったためと考えられます。その後は平成 2 年まで、人口の減少は比較的ゆるやかになっています。

平成 7 年以降は、社会的な少子高齢化等の影響もあり、徐々に人口の減少が加速している状況です。

人口と人口変化率の推移

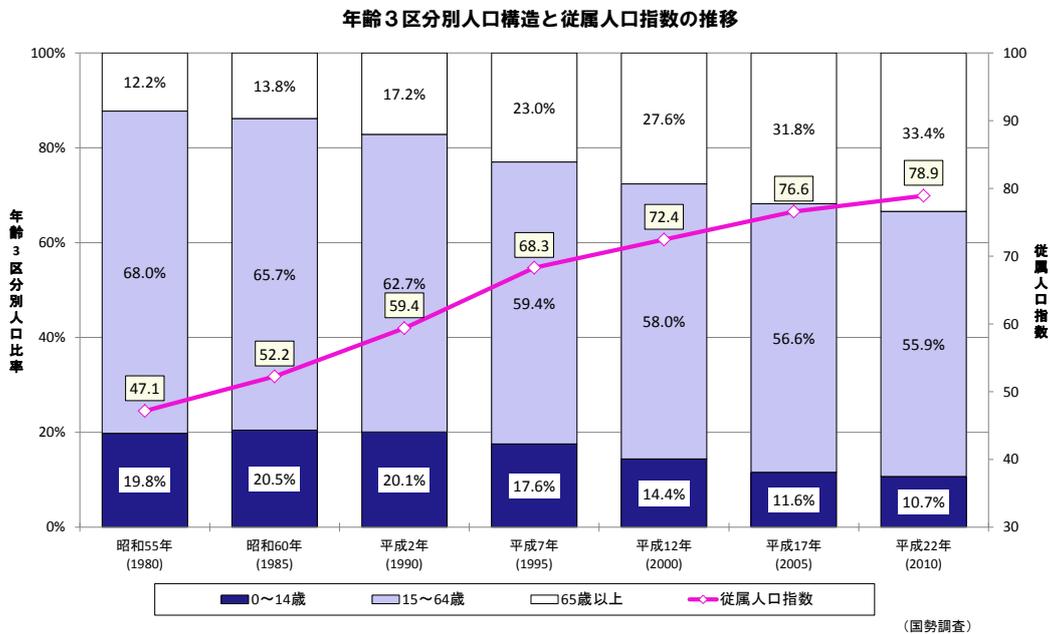


また、昭和 55 年の人口を 100 とした場合の変化指数の推移を全国・山形県・舟形町で比較すると、全国では平成 22 年がピークとなっているのに対し、舟形町は昭和 55 年以降、一貫した減少傾向で推移しており、平成 22 年には 76.8 となっています。



## 2. 年齢別人口の動向

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和55年の12.2%から平成22年には33.4%と30年間で21.2ポイント増加している一方で、年少人口は19.8%から10.7%と9.1ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。従属人口指数は、昭和55年47.1から平成22年には78.9まで増加しています。



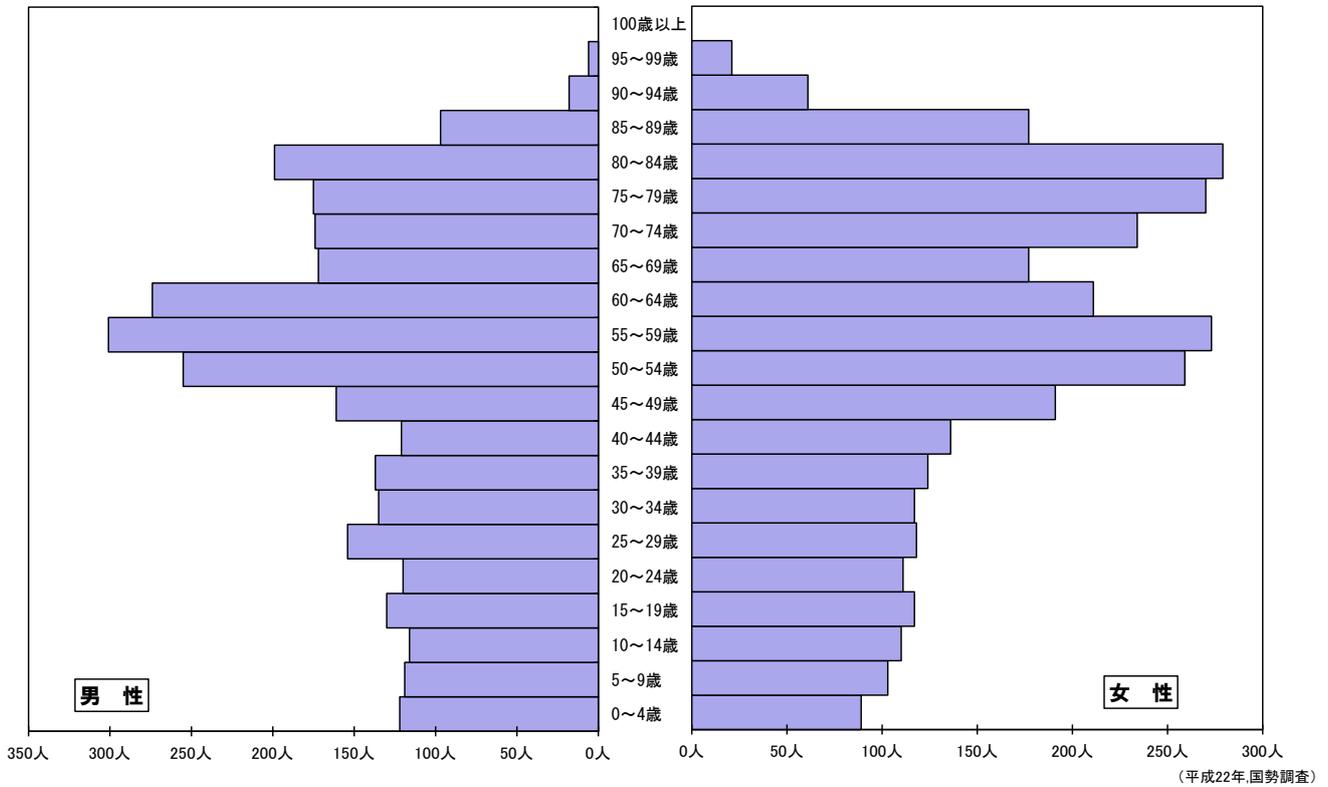
従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	
人 口	年少人口	0～4歳	565	535	475	329	223	221	211
		5～9歳	534	551	539	468	315	233	222
		10～14歳	490	536	554	529	468	318	226
		計	1,589	1,622	1,568	1,326	1,006	772	659
	生産年齢人口	15～19歳	519	402	451	449	426	397	247
		20～24歳	537	346	259	320	233	269	231
		25～29歳	646	545	383	258	301	263	272
		30～34歳	551	637	524	367	268	270	252
		35～39歳	417	536	637	529	352	265	261
		40～44歳	488	408	528	621	531	357	257
		45～49歳	611	488	400	518	604	512	352
		50～64歳	1,687	1,840	1,716	1,422	1,342	1,445	1,573
	計	5,456	5,202	4,898	4,484	4,057	3,778	3,445	
	老年人口	65～74歳	677	694	851	1,106	1,118	952	757
		75歳以上	306	402	489	630	815	1,169	1,303
計		983	1,096	1,340	1,736	1,933	2,121	2,060	
年齢不詳		0	0	0	0	0	0	0	
総人口		8,028	7,920	7,806	7,546	6,996	6,671	6,164	
構 成 比	年少人口	0～14歳	19.8%	20.5%	20.1%	17.6%	14.4%	11.6%	10.7%
	生産年齢人口	15～64歳	68.0%	65.7%	62.7%	59.4%	58.0%	56.6%	55.9%
	老年人口	65歳以上	12.2%	13.8%	17.2%	23.0%	27.6%	31.8%	33.4%

(国勢調査)

平成 22 年の舟形町の 5 歳階級別の人口構造をみると、団塊の世代を含む 60～64 歳の人口に比べ、50～59 歳の人口の割合が大きくなっており、今後さらに高齢化が進むことが予測されます。

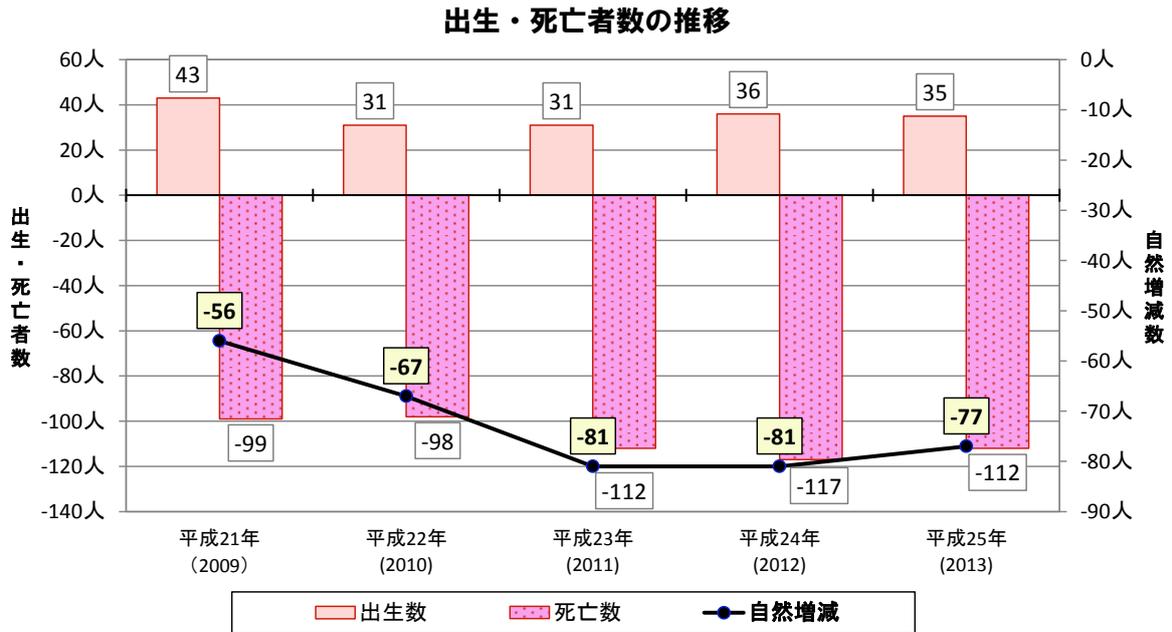
舟形町の 5 歳階級別人口構造



### 3. 人口動態

#### ①自然動態

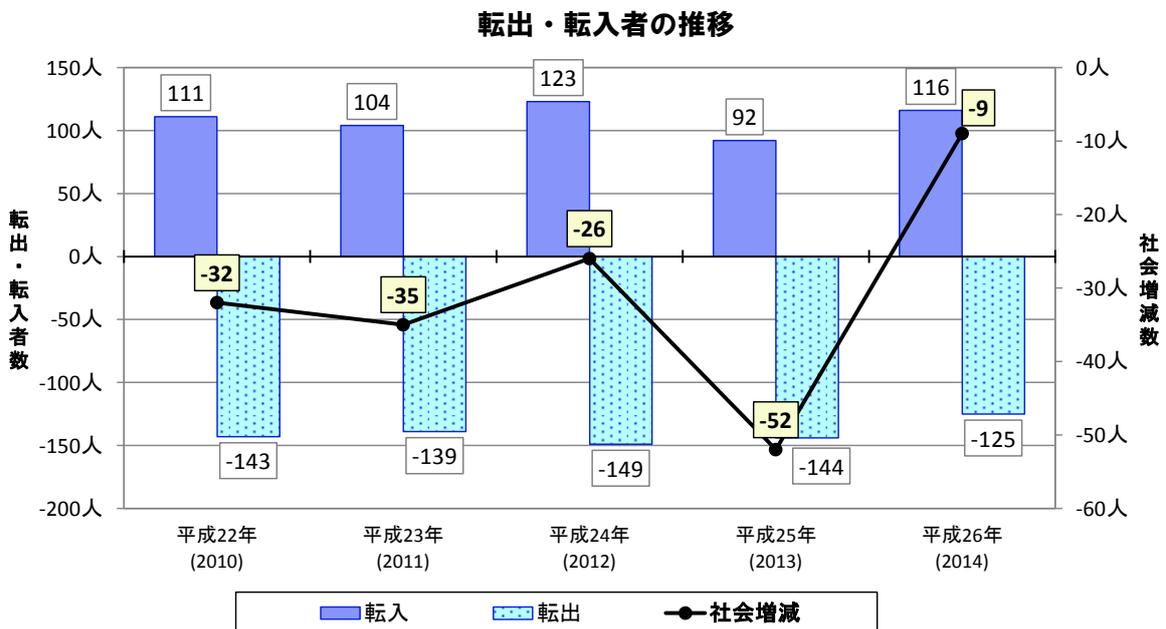
平成 21～25 年の 5 年間の出生・死亡者数をみると、多少の振幅はあるものの、出生数・死亡数ともにほぼ横ばいで推移しており、最近 3 か年では死亡者数が出生数を 80 人前後上回っています。



(人口動態統計)

#### ②社会動態

平成 22～26 年の 5 年間の転入・転出者数をみると、出生・死亡者数と同様に、多少の振幅はあるものの、転入・転出ともにほぼ横ばいで推移しています。平成 26 年では転入者 116 人に対し、転出者 125 人で、9 人の転出超となっています。

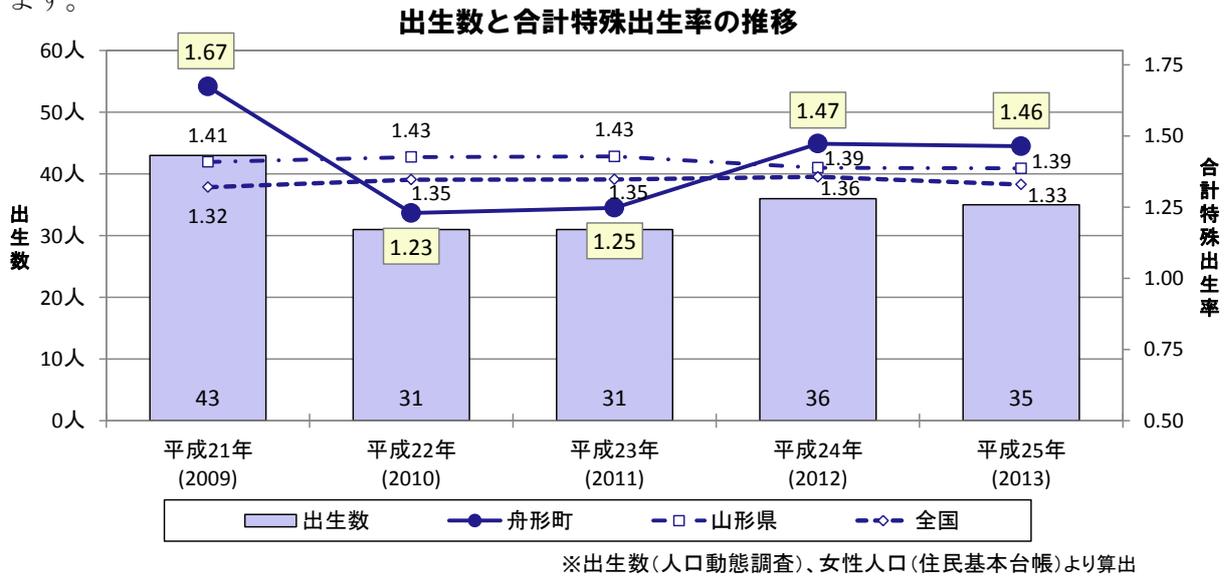


(住民基本台帳)

## 4. 要因別分析

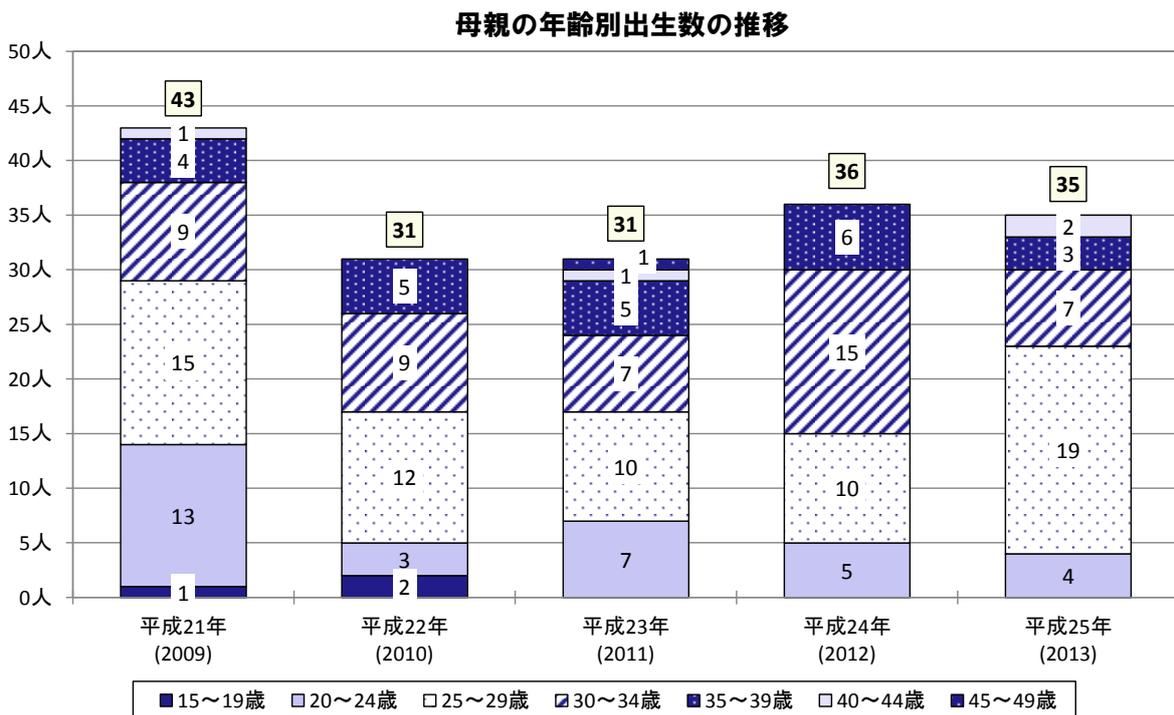
### ①出生の状況

平成 21～25 年の 5 年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・山形県はほぼ横ばいで推移していますが、舟形町は平成 21 年の 1.67 をピークに、平成 22 年には全国・山形県より低い 1.23 まで減少しましたが、平成 24 年には 1.47 に回復し、平成 25 年には 1.46 となっています。



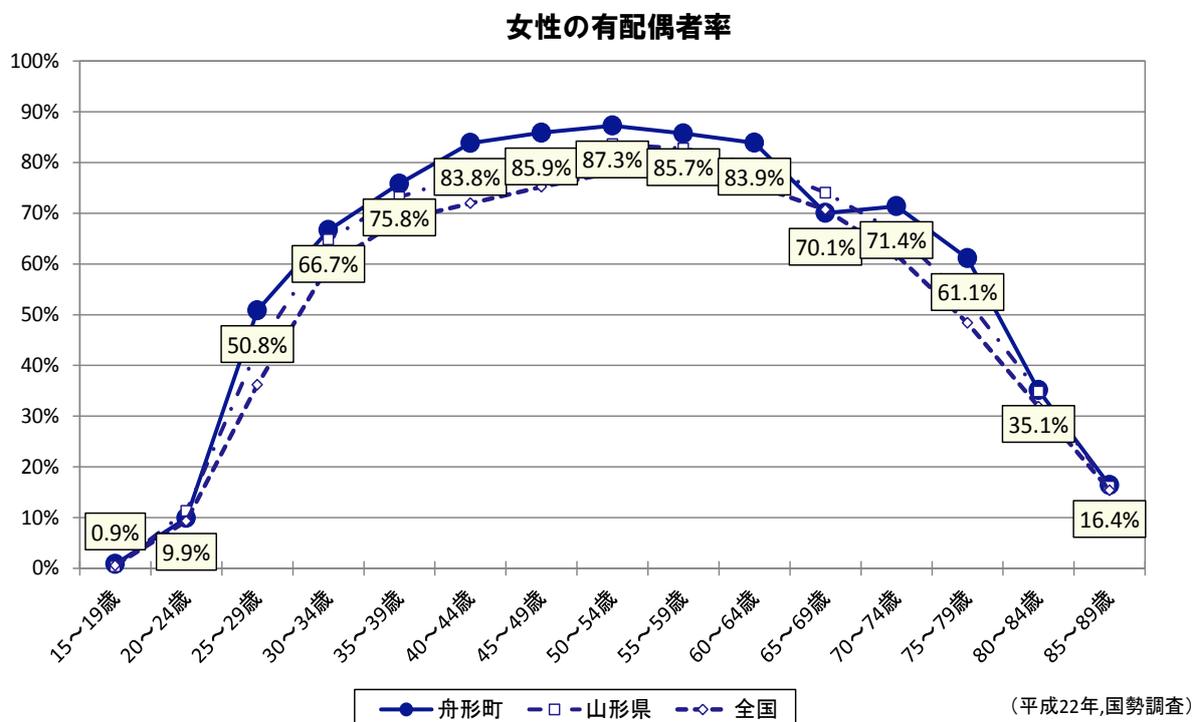
合計特殊出生率は、人口動態統計による母親の年齢 5 歳階級別出生数を住民基本台帳（3 月 31 日付）による 15～49 歳の 5 歳階級別の女性人口で除した値の合計

母親の年齢別出生数の推移をみると、平成 24 年を除いて、20 代の母親の出生数が 30 代の母親の出生数を上回っています。



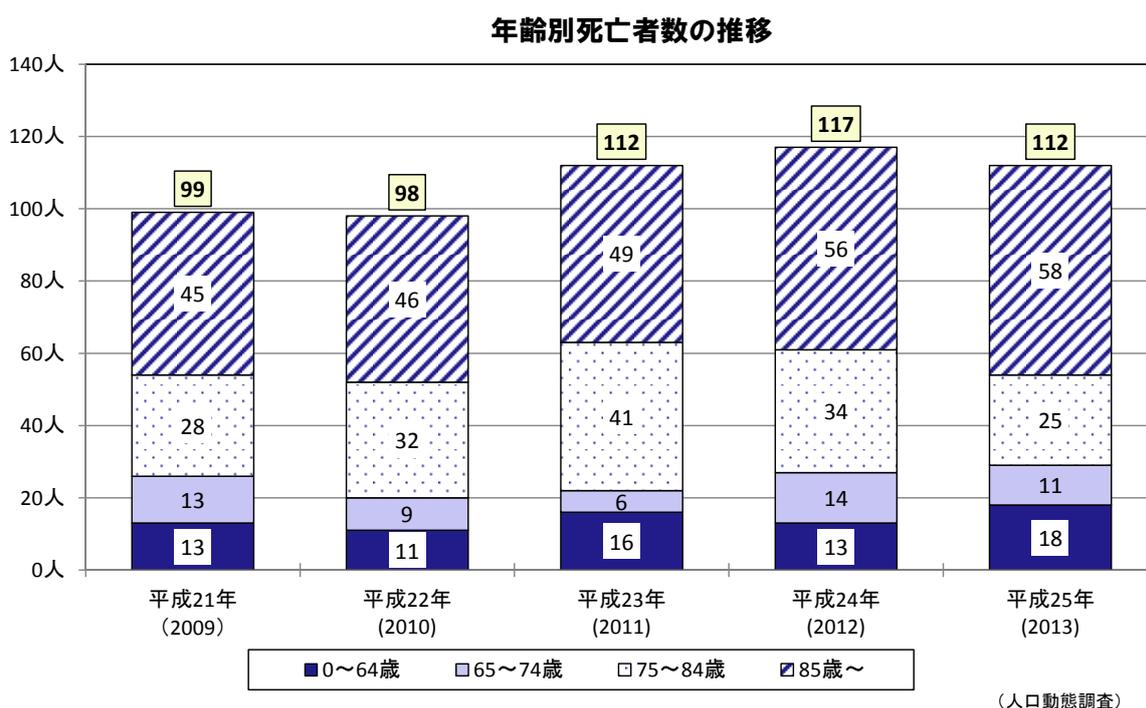
平成 22 年の女性の有配偶率を全国・山形県・舟形町で比較すると、“20～24 歳” “65～69 歳” を除いたすべての年代で、全国・山形県に比べて舟形町の有配偶率が高くなっています。

我が国では出産の多くが嫡出子であることから、“20～29 歳” の女性の有配偶率が高いことは、20 代の母親の出生数の多さにつながっています。



## ②死亡の状況

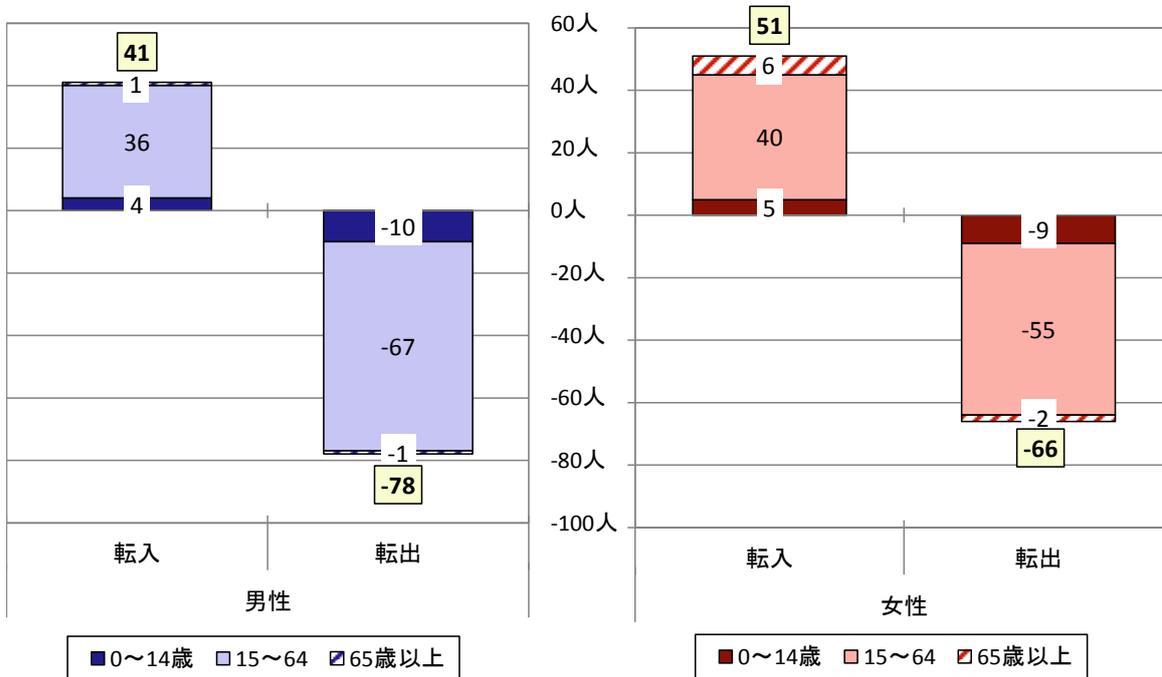
平成 21～25 年の 5 年間の死亡者数をみると、各年 100 人前後で推移しており、年齢別では 85 歳以上が占める割合が高い状況です。



### ③ 転入・転出の状況

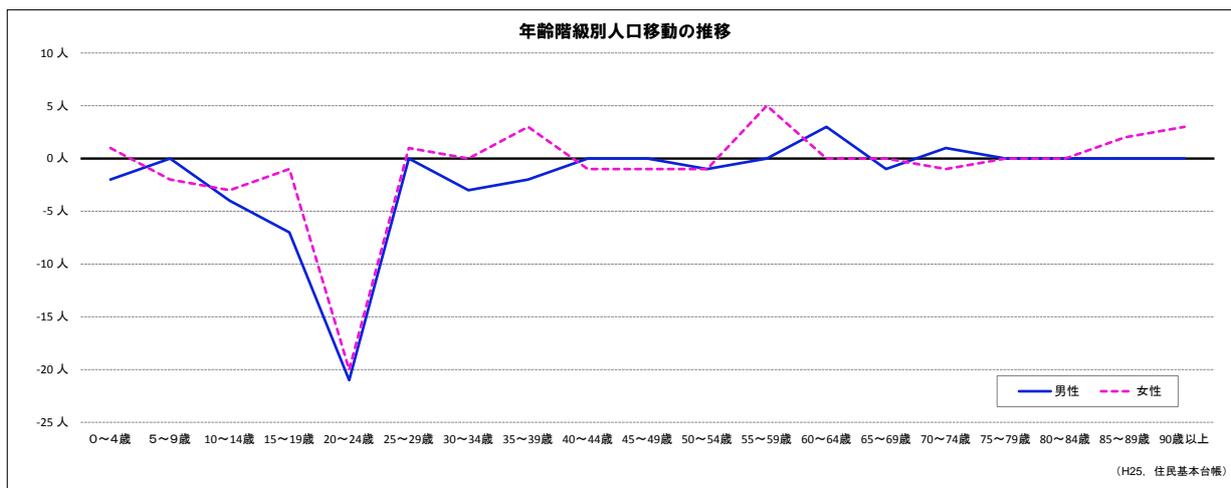
平成 25 年の転入・転出の状況を性別・年齢 3 区分別にみると、男女ともに“15～64 歳”の移動が約 8 割を占めており、転出が転入を上回っています。

性別・年齢 3 区分別の転入・転出の状況



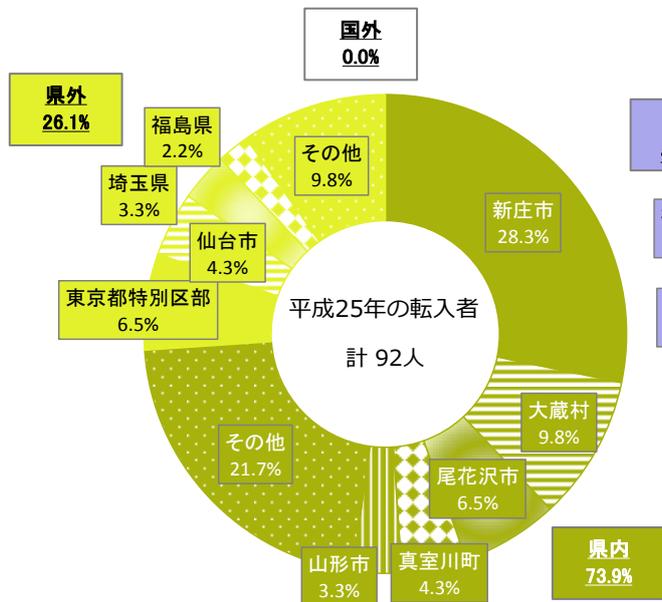
(平成25年,住民基本台帳)

また、平成 25 年の転入・転出の差である純移動数について、性別・年齢区分別にみると、男女ともに“20～24 歳”で大幅な転出超過となっています。これは進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因であると考えられます。

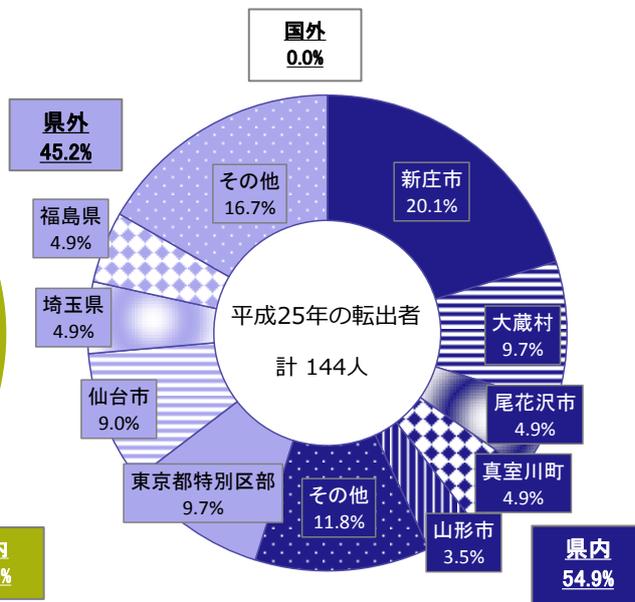


平成 25 年の転入・転出の状況を居住地別にみると、県内では転入・転出ともに新庄市が最も多く、転入では全体の約 3 割を占めています。県外では、転入・転出ともに東京都特別区部が最も多くなっています。県外の割合は、転入に比べ転出が高く、首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への転出者は全体の約 2 割となっています。

### 転入の状況



### 転出の状況



(平成 25 住民基本台帳)

## 5. その他の分析

### ①通勤・通学の状況

平成22年の町内常住の就業者・通学者3,086人の従業・通学地についてみると、町内に通勤・通学している人が1,518人(49.2%)、次いで新庄市929人(30.1%)、尾花沢市140人(4.5%)となっています。

他市町村常住の就業者・通学者で舟形町に通勤・通学している人をみると、新庄市から通勤・通学している人が356人(新庄市の通勤・通学者の1.8%)、次いで最上町76人(最上町の通勤・通学者の1.5%)となっています。

常住地および従業通学地別の就業者・通学者数

(人)

		人口	常住就業者・通学者数 (従業通学地不詳を含まない)	従業通学地												
				県内											県外	
				山形市	新庄市	村山市	天童市	東根市	尾花沢市	大石田町	最上町	舟形町	真室川町	戸沢村	仙台市	
常住地	県内	山形市	254,244	133,441	113,969	241	339	5,134	1,622	72	12	5	1	7	2	1,949
		新庄市	38,850	19,912	353	16,316	131	110	162	344	67	266	356	403	270	48
		村山市	26,811	14,165	1,233	137	7,757	881	2,408	404	167	5	5	3	2	92
		天童市	62,214	33,312	8,049	112	605	18,515	3,139	133	31	1	6	5	3	344
		東根市	46,414	25,271	2,891	153	1,531	2,577	15,875	334	122	2	12	8	1	267
		尾花沢市	18,955	10,517	400	280	782	287	688	7,424	400	27	27	8	2	37
		大石田町	8,160	4,401	249	137	457	155	376	743	2,098	5	12	2	0	25
		最上町	9,847	5,223	48	802	21	12	25	96	14	3,858	76	12	7	21
		舟形町	6,164	3,086	80	929	73	29	63	140	48	77	1,518	23	20	7
		真室川町	9,165	4,748	99	1,238	10	34	23	36	4	15	20	2,820	35	15
		戸沢村	5,304	2,625	32	878	10	11	16	28	10	14	30	35	1,314	10
県外	仙台市	1,045,986	517,137	1,173	28	16	71	110	4	1	0	0	0	0	465,440	

(平成22年,国勢調査)

常住地および従業通学地別の就業者・通学者率

(人)

		人口	常住就業者・通学者数 (従業通学地不詳を含まない)	従業通学地												
				県内											県外	
				山形市	新庄市	村山市	天童市	東根市	尾花沢市	大石田町	最上町	舟形町	真室川町	戸沢村		
常住地	県内	山形市	254,244	133,441	85.4%	0.2%	0.3%	3.8%	1.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
		新庄市	38,850	19,912	1.8%	81.9%	0.7%	0.6%	0.8%	1.7%	0.3%	1.3%	1.8%	2.0%	1.4%	0.2%
		村山市	26,811	14,165	8.7%	1.0%	54.8%	6.2%	17.0%	2.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
		天童市	62,214	33,312	24.2%	0.3%	1.8%	55.6%	9.4%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
		東根市	46,414	25,271	11.4%	0.6%	6.1%	10.2%	62.8%	1.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
		尾花沢市	18,955	10,517	3.8%	2.7%	7.4%	2.7%	6.5%	70.6%	3.8%	0.3%	0.3%	0.1%	0.0%	0.4%
		大石田町	8,160	4,401	5.7%	3.1%	10.4%	3.5%	8.5%	16.9%	47.7%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.6%
		最上町	9,847	5,223	0.9%	15.4%	0.4%	0.2%	0.5%	1.8%	0.3%	73.9%	1.5%	0.2%	0.1%	0.4%
		舟形町	6,164	3,086	2.6%	30.1%	2.4%	0.9%	2.0%	4.5%	1.6%	2.5%	49.2%	0.7%	0.6%	0.2%
		真室川町	9,165	4,748	2.1%	26.1%	0.2%	0.7%	0.5%	0.8%	0.1%	0.3%	0.4%	59.4%	0.7%	0.3%
		戸沢村	5,304	2,625	1.2%	33.4%	0.4%	0.4%	0.6%	1.1%	0.4%	0.5%	1.1%	1.3%	50.1%	0.4%
県外	仙台市	1,045,986	517,137	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	90.0%	

(平成22年,国勢調査)

## ②就業構造の状況

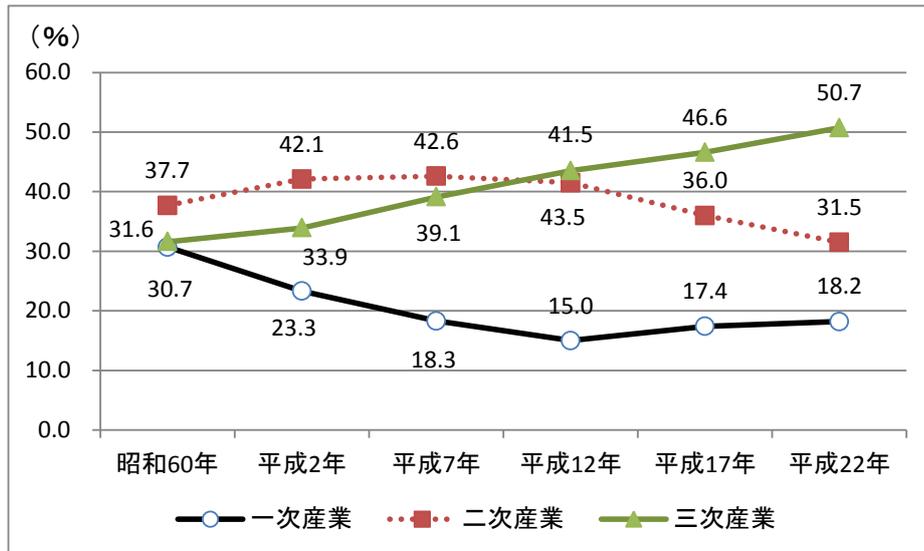
### <産業別就業人口>

総就業者数は年々減少しており、平成22年で2,857人となっています。

産業別就業人口の構成比をみると、三次産業はコンスタントに伸び、二次産業は平成7年以降減少しています。それに対し、一次産業は平成12年までは減少していましたが、それ以降やや増加の傾向にあります。

産業別就業人口・構成比

(人、%)



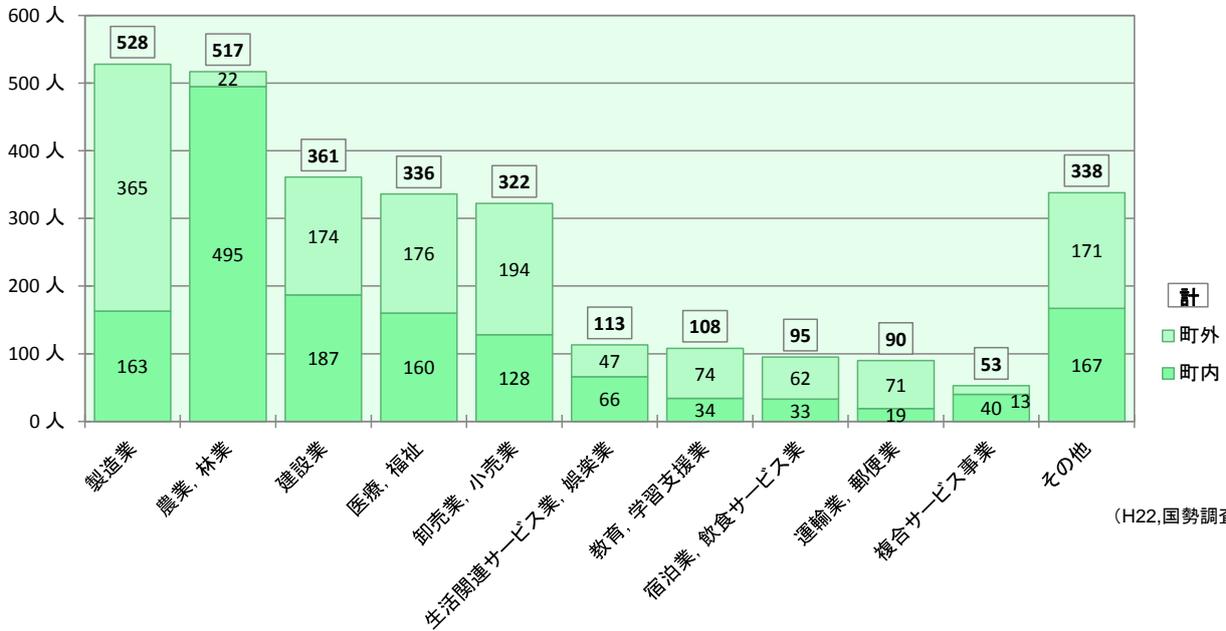
産業分類	昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	就業者	構成比										
第一次産業	1,180	30.7	924	24.0	655	18.3	495	15.0	538	17.4	519	18.2
農業	1,147	29.8	899	23.3	630	17.6	477	14.4	526	17.0	501	17.5
林業	33	0.9	23	0.6	25	0.7	15	0.5	11	0.4	16	0.6
漁業			2	0.1			3	0.1	1	0.0	2	0.1
第二次産業	1,449	37.7	1,621	42.1	1,518	42.6	1,375	41.5	1,118	36.0	889	31.5
鉱業	19	0.5	7	0.2	13	0.3	6	0.2	1	0.0	0	0.0
建設業	455	11.8	492	12.8	566	15.9	566	17.1	420	13.5	361	13.0
製造業	975	25.4	1,122	29.8	939	26.4	803	24.2	697	22.5	528	18.5
第三次産業	1,216	31.6	1,306	33.9	1,387	39.1	1,441	43.5	1,447	46.6	1,449	50.7
電気・ガス・水道	5	0.1	2	0.1	3	0.1	19	0.6	4	0.1	4	0.1
運輸・通信業	107	2.8	102	2.6	112	3.1	117	3.5	88	2.8	97	3.4
卸・小売業・飲食店	413	10.7	424	11.0	422	12.0	383	11.6	341	11.0	322	11.3
金融・保険業	32	0.8	42	1.1	33	1.0	26	0.8	25	0.8	26	0.9
不動産業			1	0.0			1	0.0	2	0.1	12	0.4
サービス	529	13.8	583	15.1	682	19.1	730	22.0	852	27.5	860	30.0
公務	130	3.4	152	4.0	135	3.8	165	5.0	135	4.3	128	4.5
分類不能	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.1
総数	3,846	100	3,851	100	3,560	100	3,311	100	3,103	100	2,857	100

(国勢調査)

### <町民の就業状況と町内従業者数>

平成 22 年の舟形町常住の就業者について産業分類別にみると、製造業が 528 人と最も多いですが、町住民の就業は 163 人となっています。また、農業・林業は 517 人で、総就業者数では第二位ですが、そのうち 495 人（95.7%）が町住民となっています。

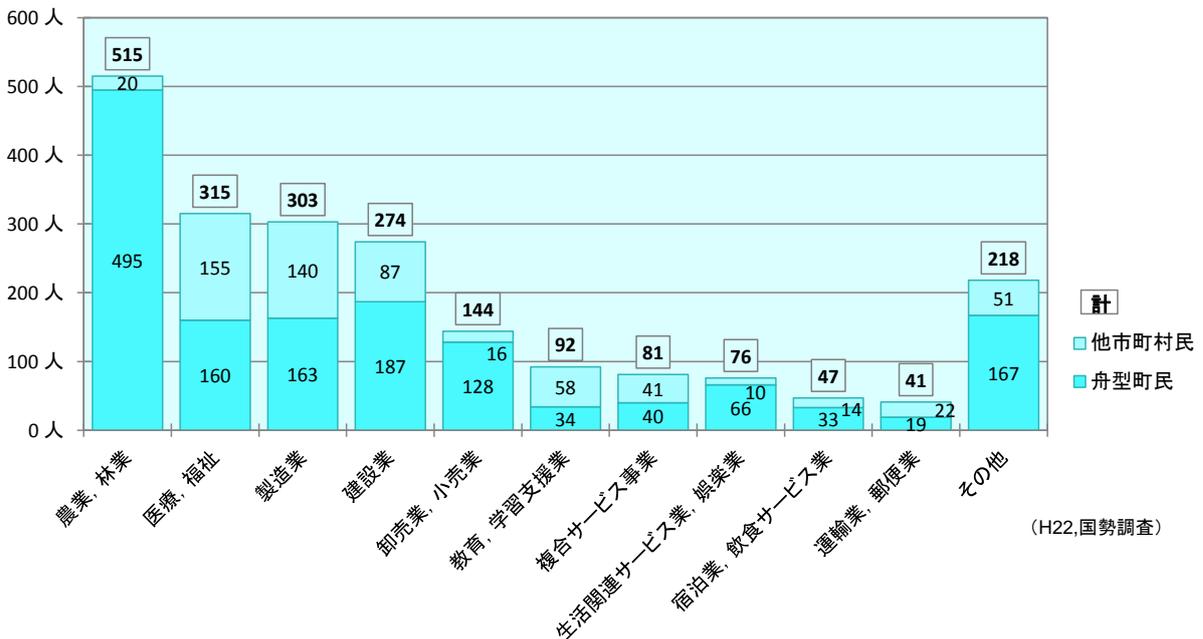
町内常住の就業者数（上位 10 産業）



(H22,国勢調査)

また、平成 22 年の舟形町内従業者について産業分類別にみると、農業・林業が 515 人と最も多く、そのうち他市町村常住の就業者は 20 人（0.04%）で、ほとんどが町内の従業者となっています。その他の業種で町民の方が多い業種は「教育・学習支援業（学校、塾等）」と「複合サービス業（郵便局、共同組合等）」となっています。

町内従業者数（上位 10 産業）



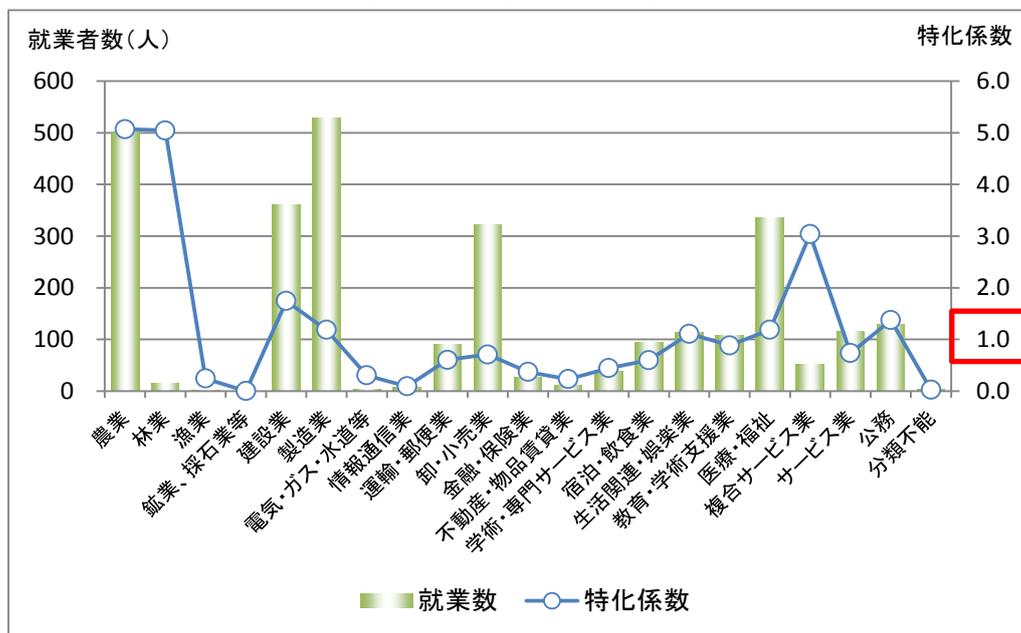
(H22,国勢調査)

## <産業特化係数>

産業特化係数とは、全国の産業別就業構成比を「1」とした場合の、各自治体の産業別就業構成比を指数でみた場合のものであります。

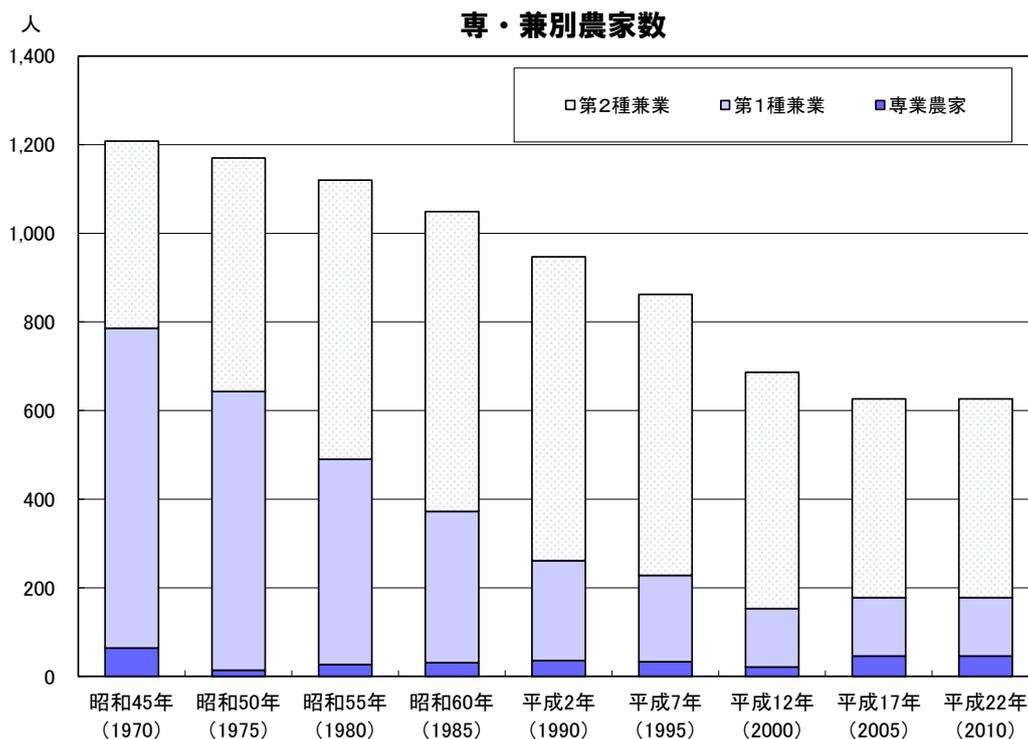
これで見ると、「農業」の特化係数が「5」というのが特徴的であり、本町の基幹産業としての位置づけを端的に示しています。

### 産業別就業人口構成比の特化係数



(H22 国勢調査)

本町の基幹産業である農家の状況についてみると、近年農家数は約600戸となっていますが、大半は第2種兼業農家となっています。また、就業者の高齢化、後継者不足、それに伴う耕作放棄地等の問題がでています。

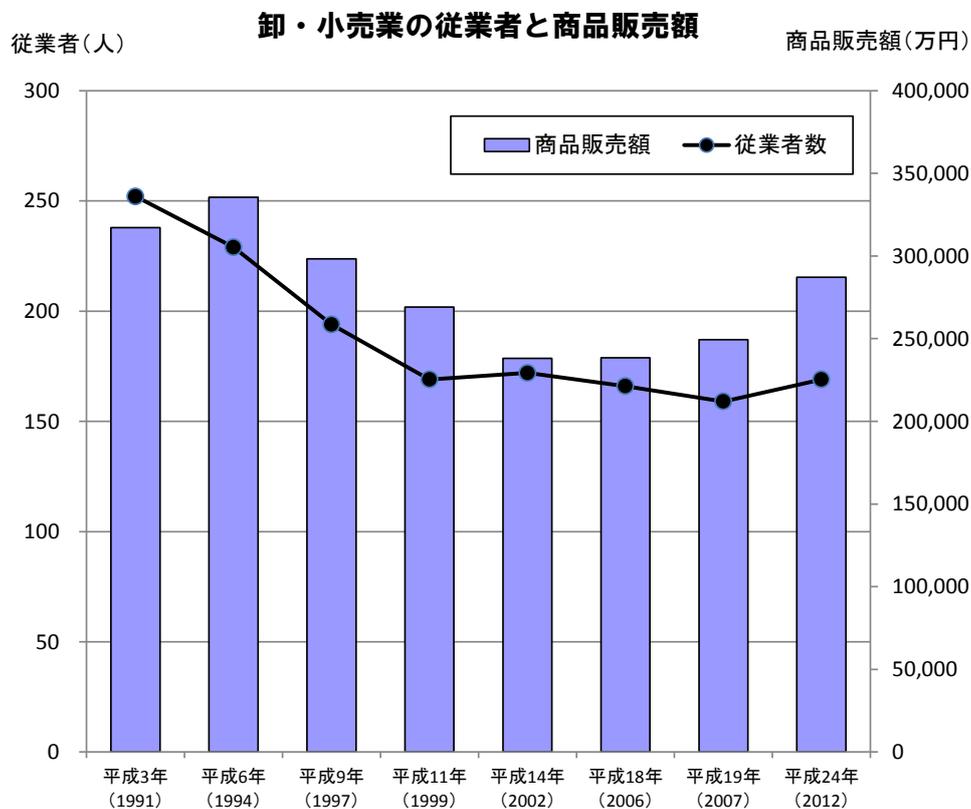


(H22 農林業センサス)

### ③商工業の状況

#### <商業>

人口減少に伴い商業購買力も小さくなっており、商業関連の従業者や商品販売額も減少していましたが、平成19年以降、やや回復の兆しが見られます。

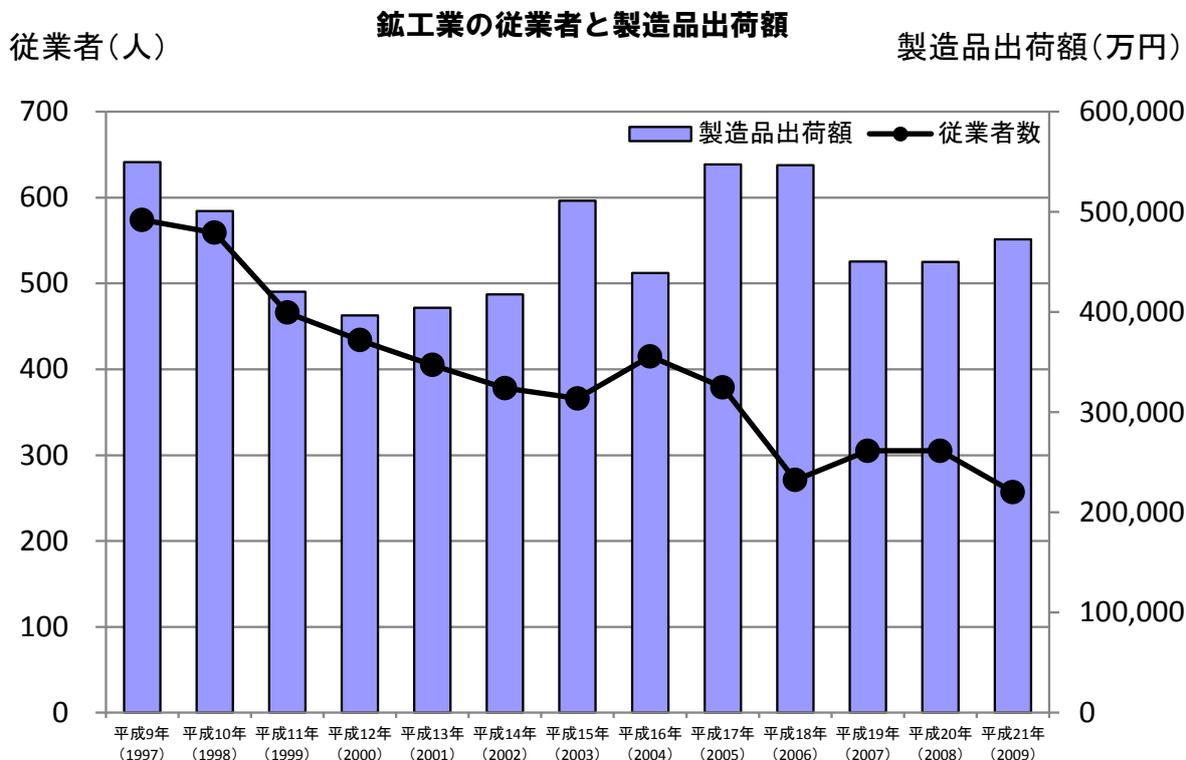


	商店数	従業者数	商品販売額
平成3年	101	252	317,144
平成6年	92	229	335,531
平成9年	75	194	298,311
平成11年	79	169	269,122
平成14年	65	172	238,053
平成18年	62	166	238,428
平成19年	56	159	249,483
平成24年	45	169	287,139

(山形県統計年鑑)

## <鋳工業>

鋳工業の事業所数は近年ほぼ横這いですが、従業者数は減少傾向で、製造品出荷額も横這い状況が続いています。



	事業所数	従業者数	製造品出荷額
平成9年	19	574	549,779
平成10年	20	559	500,791
平成11年	15	466	420,523
平成12年	12	434	396,733
平成13年	13	405	404,418
平成14年	12	378	417,837
平成18年	7	366	511,038
平成19年	9	415	439,085
平成20年	11	379	547,293
平成21年	9	271	546,621
平成22年	11	305	450,421
平成23年	11	305	450,241
平成24年	10	257	472,796

(山形県統計年鑑)

#### ④児童の状況

保育園及び小・中学生の児童・生徒数も徐々に減少しています。

当面は少子化の流れにあり、さらに児童・生徒数の減少も予想されます。

#### 保育園の状況

(人)

ほほえみ保育園	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
平成21年	2	7	15	48	47	43	162
22年	4	9	12	40	50	46	161
23年	9	5	16	38	41	50	159
24年	1	10	10	41	40	40	142
25年	2	7	15	36	41	41	142
26年	6	10	19	33	39	41	148

(税務福祉課)

#### 幼稚園・小学校・中学校の状況

(人)

	幼稚園			小学校			中学校		
	学校数	学級数	園児数	学校数	学級数	児童数	学校数	学級数	生徒数
平成8年	1	3	39	4	31	580	2	13	324
9年	1	3	29	4	30	559	2	13	327
10年	1	3	21	4	30	544	1	10	315
11年	1	3	19	4	28	493	1	10	305
12年	1	3	15	4	27	461	1	10	291
13年	1	3	19	4	25	408	1	10	303
14年	1	3	13	4	23	386	1	9	275
15年	1	3	13	4	23	344	1	8	257
16年	1	3	10	4	22	313	1	8	237
17年	1	2	9	4	22	315	1	8	220
18年	1	2	9	4	21	297	1	8	202
19年	-	-	-	4	22	283	1	7	177
20年	-	-	-	4	20	277	1	6	153
21年	-	-	-	4	20	266	1	7	173
22年	-	-	-	4	21	269	1	7	140
23年	-	-	-	4	21	259	1	7	141
24年	-	-	-	4	21	269	1	7	141
25年	-	-	-	1	13	265	1	6	131
26年	-	-	-	1	15	274	1	6	114

(教育委員会)

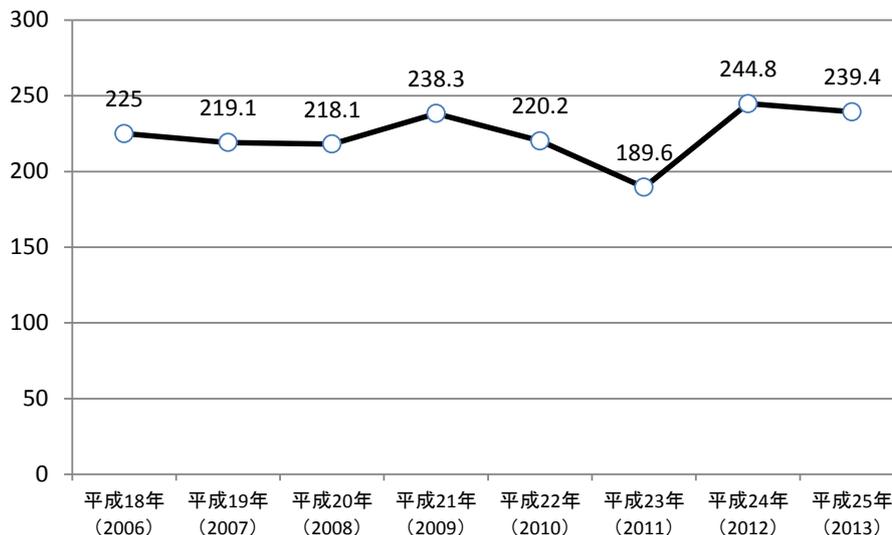
#### ⑤観光について

本町の観光客数は近年横這い状況で、平成25年で239,400人となっています。

本町は“若あゆと古代ロマンの里”としてまちづくりを進めており、今後の交流人口の拡大の潜在的な可能性はあるものと思われまます。

(千人)

#### 観光客数の動向



(山形県観光統計)

## ⑥財政状況について

平成25年度の歳入総額は約44億円で、近年やや減少気味にあります。

自主財源の根幹である町税は約5億円で、歳入総額の約12%となっています。

歳入の中で最も大きな割合を占めているのは地方交付税で約21億円、歳入総額の約48%となっています。

今後人口減少が見通されるなか、町税の大きな伸びは期待できず、一方10年間程度は高齢者数の増加等に伴う医療費等にかかる扶助費はさらに増大することも予想され、健全な財政運営は大きな課題となります。

### 歳入構造の状況

(%、千円)

款 別	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	決算額	構成比								
1.町 税	476,029	11.3	476,952	11.3	482,759	10.5	522,604	11.9	509,079	11.7
2.地方譲与税	47,201	1.1	45,846	1.1	39,105	0.9	36,291	0.8	34,492	0.8
3.地方消費税交付金	47,946	1.1	47,863	1.1	47,043	1.0	46,293	1.0	45,900	1.1
4.利子割交付金	1,664	0.0	1,465	0.0	1,172	0.0	998	0.0	995	0.0
5.配当割交付金	470	0.0	550	0.0	652	0.0	513	0.0	1,028	0.0
6.株式等譲渡所得割交付金	181	0.0	166	0.0	157	0.0	143	0.0	1,522	0.0
7.ゴルフ場利用税交付金	6,244	0.1	5,224	0.1	5,132	0.1	5,395	0.1	5,393	0.1
8.自動車取得税交付金	12,286	0.3	10,629	0.3	8,327	0.2	11,144	0.3	9,848	0.2
9.地方特例交付金	7,770	0.2	11,081	0.3	8,881	0.2	1,183	0.0	1,002	0.0
10.地方交付税	1,985,070	47.0	2,086,863	49.3	2,161,219	47.1	2,109,334	47.8	2,073,653	47.4
11.交通安全対策特別交付金	1,105	0.0	1,052	0.0	928	0.0	982	0.0	958	0.0
12.分担金及び負担金	49,503	1.2	43,812	1.0	32,863	0.7	15,613	0.4	15,227	0.4
13.使用料及び手数料	36,421	0.9	26,689	0.6	71,652	1.6	73,242	1.7	73,145	1.7
14.国庫支出金	470,201	11.1	374,953	8.9	395,629	8.6	327,791	7.4	358,682	8.2
15.県支出金	271,995	6.4	312,539	7.4	494,053	10.8	431,490	9.8	375,516	8.6
16.財産収入	33,561	0.8	12,479	0.3	23,339	0.5	12,446	0.3	15,368	0.4
17.寄 付 金	3,861	0.1	4,886	0.1	5,030	0.1	5,891	0.1	5,254	0.1
18.繰 入 金	235,829	5.6	90,563	2.1	173,384	3.8	212,475	4.8	247,508	5.7
19.繰 越 金	147,625	3.5	193,448	4.6	194,177	4.2	138,864	3.1	179,689	4.1
20.諸 収 入	71,828	1.7	61,741	1.5	47,786	1.0	44,905	1.0	58,079	1.3
21.町 債	337,300	8.0	410,100	9.7	399,200	8.7	412,000	9.3	358,600	8.2
歳入合計	4,244,138	100.0	4,231,768	100.0	4,592,331	100.0	4,409,597	100.0	4,370,938	100.0

(まちづくり課)

## 6. 現状の動向からみた課題

舟形町の人口動向を総括すると次のように概括されます。

### <自然動態からみて>

- 死亡数は100人前後で推移していますが、高齢化に伴い当面は今後増加することが想定されます。
- 出生数は毎年40人前後となっていますが、ここ数年若干増加の兆しもみられます。
- 合計特殊出生率は1.46と決して高い数字ではありませんが、全国や県の平均よりは上回っており、ここ数年増加の兆しもみられます。
- 今後は、いかに合計特殊出生率を上げていくかが課題となり、そのためには若い世代の定住⇒結婚⇒出産⇒子育てというライフサイクルに対する一環した環境づくりが重要な課題となります。

### <社会動態からみて>

- 現在転入と転出はほぼ拮抗しています。
- 移動の状況を性別・年齢別にみると、「15～19歳」で男性の転出超が始まり、「20～24歳」では男女ともに大きく転出超となっており、その要因は進学・就職・結婚等が考えられます。
- 転出入先でみると、共に「新庄市」が最も多くなっており、首都圏への転出はそれほど大きなウェイトとはなっていません。
- また、日常的な生活圏（通勤・通学等）をみても「新庄市」との繋がりは非常に強いものがあります。
- “働く場”としては新庄市の位置づけは高いものがありますが、一方新庄市は日常生活圏内の地域でもあり、舟形町の“住む場”としての魅力を高め、転出を抑制し転入を促進していくことが重要な課題となります。

### <今後の見通し>

- 日本全体が人口減少社会に転じた中において、本町においても、多くの他市町村と同様に人口の減少が続くと考えられています。
- しかしながら、まちづくりを支える力を維持していくためにも、人口減少の抑制は重要な課題であり、本町の持つ特性を活かしながら、自然減を極力少なくし、社会増減をプラスにしておくことを目指し、取り組みを加速させる必要があります。
- このために、“子育てをするなら舟形町”といった若い世代が定住する仕組みと合わせ、転出者を減らし、転入者を増加させるための対策が必要となります。
- 本町の場合、農業が基幹産業であり、農業を軸とした就農対策や、六次産業化への取り組みを強化し、少しでも雇用力を高めていくとともに、“住むなら舟形町”といった生活しやすい環境整備に加え移住対策を強化するなど、複合的な対策を講じていくことが重要です。
- 以降の人口推計シミュレーションにおいては、こういった視点も含め、いかに子供の数を増やし、また転出を抑制し、転入を促進することにより現在の移動のマイナスをいかに無くしていくかといった視点からの検討を行うこととなります。

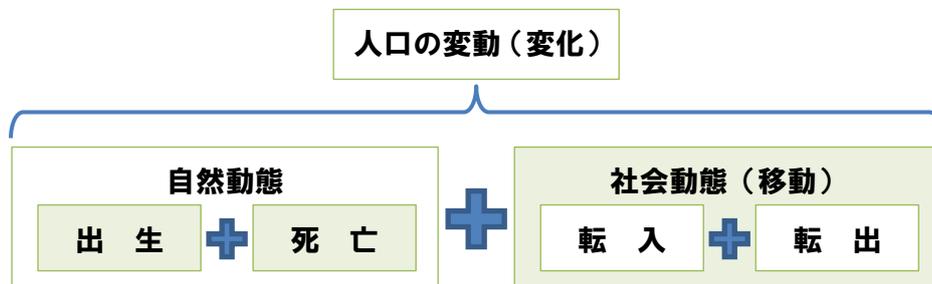


## II 人口シミュレーション

# 1. 人口推計について

## ①人口推計の基本的考え方

○人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



○移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引の結果としての（純）移動数として考えます。

○したがって、将来の人口推計を行うにあたっては、これらの人口変動の3要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。

○人口推計は、上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとします。

○具体の推計にあたっては、国が作成・配布した人口推計ツールを用いています。

## ②人口推計のシミュレーション別概要

○ここでは、以下に示す7種類のシミュレーションを行っています。

○いずれの推計についても、2010年の国勢調査による人口を基準人口として、2015年以降の推計を行っています。

### [パターン①：社人研推計準拠]

○国立社会保障・人口問題研究所による推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27(2015)年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。
死亡	原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、これに加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を一定と仮定。

### [パターン②：日本創成会議推計準拠]

○日本創成会議による推計です。(2040年までに推計)

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	パターン①と同様。
死亡	パターン①と同様。
移動	全国の移動総数が、社人研の2010～2015年の推計値から縮小せずに、2035年～2040年まで概ね同水準で推移すると仮定。 ※社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きな値となる。

### [パターン③：パターン①+出生率上昇]

○国提示の基本的シミュレーションで、社人研による推計をベースに、出生率の上昇を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	パターン①と同様。
移動	パターン①と同様。

### [パターン④：パターン③+移動ゼロ]

○国提示の基本的シミュレーションで、パターン③をベースに、移動がゼロ（均衡）を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	パターン①と同様。
移動	移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定。

### [パターン⑤：山形県の人口ビジョン推計パターン準拠]

○町独自推計で、パターン①をベースに、山形県が行っている人口ビジョンの推計の考え方に準拠した推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2040年までに「2.07」まで上昇し、それ以降は一定。
死亡	パターン①と同様。
移動	2040年に社会増減が均衡になる（移動：0）

### [パターン⑥：パターン①+出生率上昇（5%/年間）+定住化]

○町独自推計で、パターン①をベースに、出生率が大きく伸び（「2.5」上限と仮定）、また2060年までには移動がゼロ（均衡）を見込んだ推計です。

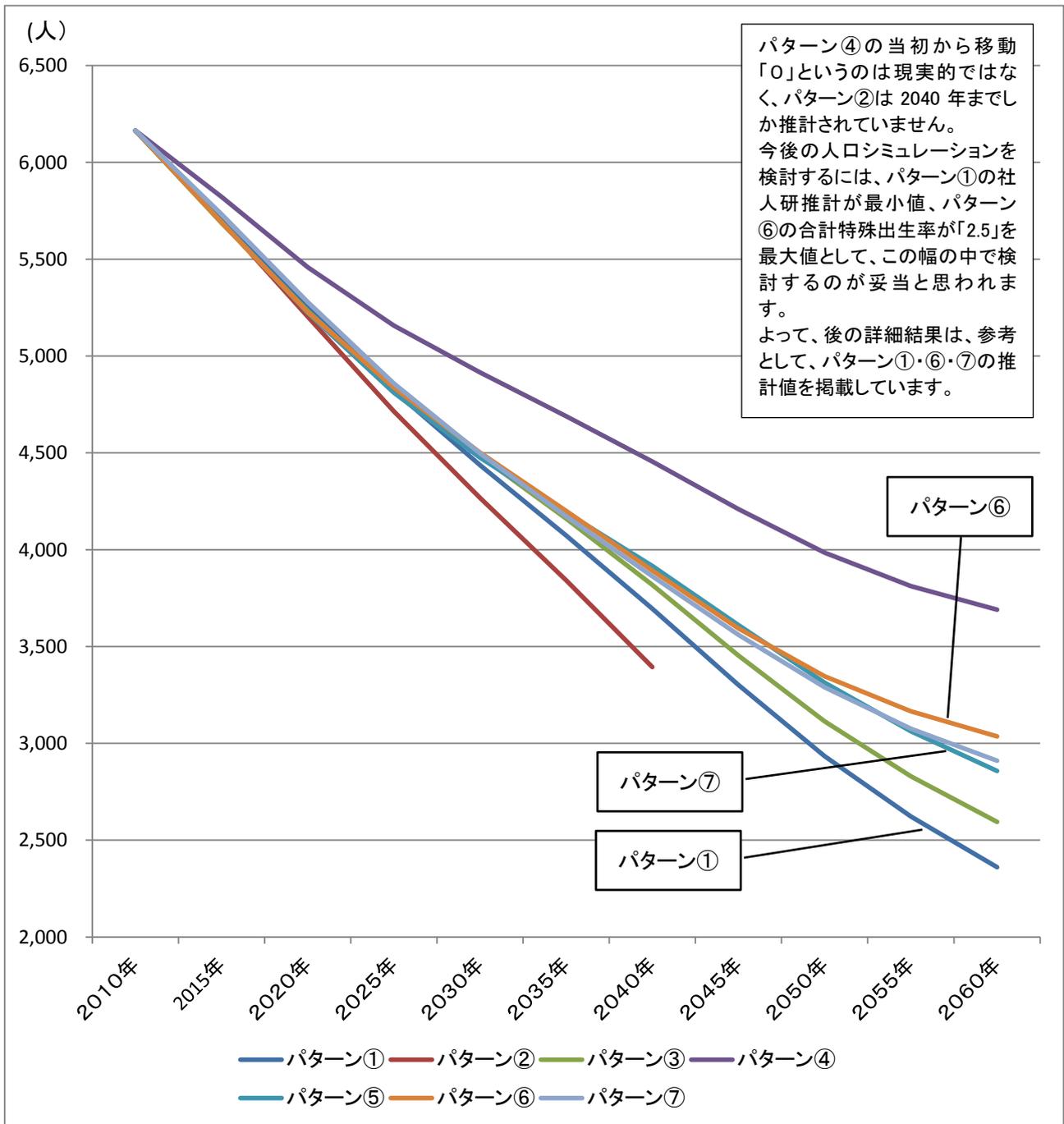
3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2015年以降、一定の比率（年率5.0%）で上昇するものと仮定（合計特殊出生率の上限2.5設定）。
死亡	パターン①と同様。
移動	社人研推計における純移動率設定をベースに、純定住率（=1+純移動率）という新たな視点を導入し、各年齢層を通じたライフサイクルでの純定住率（各年齢層の純定住率の積）が2060年までに1.0に上昇するように設定。

### [パターン⑦：パターン①+出生率上昇（現状の傾向を踏まえる）+定住化]

○町独自推計で、パターン①をベースに、出生率の近年の動きを参考に「2.1台」程度まで伸び、2060年までには移動がゼロ（均衡）を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が近年増加傾向にあり、この傾向が「2.1台」まで伸びるのが2030年、その後は一定。
死亡	パターン①と同様。
移動	パターン⑥と同様

この7パターンの推計結果は、以下の通りです。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361
パターン②	6,164	5,698	5,204	4,715	4,268	3,842	3,394				
パターン③	6,164	5,687	5,233	4,826	4,484	4,161	3,819	3,454	3,114	2,829	2,594
パターン④	6,164	5,822	5,459	5,157	4,916	4,690	4,456	4,209	3,985	3,812	3,690
パターン⑤	6,164	5,695	5,224	4,811	4,475	4,192	3,916	3,611	3,313	3,062	2,857
パターン⑥	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036
パターン⑦	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910

<参考>移動率⇒定住率への考え方

- 社人研推計における純移動率から算出される純定住率は次のとおりであり、各年齢層の純定住率の積（総積）が男女ともに1未満となっていることがわかります。
- これは、出生減少や死亡による人口変化がない場合においても、移動によって人口が減少していく構造であることを示しています。

〈社人研設定から算出される純定住率設定〉

純定住率・男

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	1.02522	1.02303	1.02455	1.02463	1.02488	1.02648	1.02648	1.02648	1.02648	1.02648
5～9歳→10～14歳	0.98137	0.98489	0.98564	0.98579	0.98580	0.98576	0.98576	0.98576	0.98576	0.98576
10～14歳→15～19歳	0.81182	0.86522	0.86512	0.86474	0.86470	0.86451	0.86451	0.86451	0.86451	0.86451
15～19歳→20～24歳	0.73013	0.81649	0.81683	0.81618	0.81514	0.81480	0.81480	0.81480	0.81480	0.81480
20～24歳→25～29歳	0.99212	1.00609	1.00572	1.00638	1.00694	1.00663	1.00663	1.00663	1.00663	1.00663
25～29歳→30～34歳	0.93374	0.95745	0.95855	0.95835	0.95816	0.95803	0.95803	0.95803	0.95803	0.95803
30～34歳→35～39歳	0.99251	0.99453	0.99541	0.99525	0.99511	0.99490	0.99490	0.99490	0.99490	0.99490
35～39歳→40～44歳	0.97585	0.98161	0.98217	0.98202	0.98189	0.98184	0.98184	0.98184	0.98184	0.98184
40～44歳→45～49歳	0.99428	0.99480	0.99483	0.99482	0.99475	0.99481	0.99481	0.99481	0.99481	0.99481
45～49歳→50～54歳	1.03027	1.03197	1.03243	1.02722	1.02151	1.02498	1.02498	1.02498	1.02498	1.02498
50～54歳→55～59歳	1.00019	1.00254	1.00735	1.00733	1.00531	1.00323	1.00323	1.00323	1.00323	1.00323
55～59歳→60～64歳	1.00462	1.00228	1.01098	1.02079	1.02093	1.01687	1.01687	1.01687	1.01687	1.01687
60～64歳→65～69歳	0.98659	0.98830	0.98885	0.98917	0.98936	0.98892	0.98892	0.98892	0.98892	0.98892
65～69歳→70～74歳	0.97055	0.97969	0.97799	0.97847	0.97880	0.97905	0.97905	0.97905	0.97905	0.97905
70～74歳→75～79歳	0.97954	0.98367	0.98649	0.98329	0.98414	0.98462	0.98462	0.98462	0.98462	0.98462
75～79歳→80～84歳	1.10140	1.08964	1.11136	1.09115	1.06511	1.07021	1.07021	1.07021	1.07021	1.07021
80～84歳→85～89歳	1.04177	1.04505	1.05677	1.06805	1.06007	1.04023	1.04023	1.04023	1.04023	1.04023
85歳以上→90歳以上	1.00313	1.01305	1.00674	0.99941	0.99694	1.00533	1.00533	1.00533	1.00533	1.00533
	0.59458	0.75864	0.79357	0.78270	0.75109	0.74520	0.74520	0.74520	0.74520	0.74520

←総積

純定住率・女

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	0.95144	0.96357	0.96403	0.96415	0.96416	0.96410	0.96410	0.96410	0.96410	0.96410
5～9歳→10～14歳	0.96342	0.97239	0.97310	0.97330	0.97333	0.97329	0.97329	0.97329	0.97329	0.97329
10～14歳→15～19歳	0.86788	0.90597	0.90587	0.90565	0.90565	0.90542	0.90542	0.90542	0.90542	0.90542
15～19歳→20～24歳	0.70953	0.80368	0.80455	0.80433	0.80359	0.80325	0.80325	0.80325	0.80325	0.80325
20～24歳→25～29歳	1.05625	1.06041	1.06446	1.06492	1.07194	1.06957	1.06957	1.06957	1.06957	1.06957
25～29歳→30～34歳	1.00989	1.00833	1.01340	1.01406	1.01377	1.01538	1.01538	1.01538	1.01538	1.01538
30～34歳→35～39歳	0.95251	0.96538	0.96664	0.96668	0.96658	0.96640	0.96640	0.96640	0.96640	0.96640
35～39歳→40～44歳	0.97608	0.98171	0.98246	0.98256	0.98263	0.98264	0.98264	0.98264	0.98264	0.98264
40～44歳→45～49歳	0.98825	0.99054	0.99077	0.99081	0.99081	0.99086	0.99086	0.99086	0.99086	0.99086
45～49歳→50～54歳	0.99565	0.99596	0.99607	0.99602	0.99594	0.99585	0.99585	0.99585	0.99585	0.99585
50～54歳→55～59歳	0.97059	0.97814	0.97828	0.97821	0.97817	0.97820	0.97820	0.97820	0.97820	0.97820
55～59歳→60～64歳	0.98283	0.98691	0.98735	0.98748	0.98741	0.98740	0.98740	0.98740	0.98740	0.98740
60～64歳→65～69歳	1.01376	1.00497	1.00473	1.00778	1.01328	1.01689	1.01689	1.01689	1.01689	1.01689
65～69歳→70～74歳	0.98195	0.98744	0.98650	0.98674	0.98691	0.98702	0.98702	0.98702	0.98702	0.98702
70～74歳→75～79歳	0.97237	0.97963	0.98103	0.97922	0.97967	0.97999	0.97999	0.97999	0.97999	0.97999
75～79歳→80～84歳	1.02569	1.02575	1.04341	1.04485	1.02477	1.02376	1.02376	1.02376	1.02376	1.02376
80～84歳→85～89歳	0.99349	0.99547	0.99677	0.99935	1.00335	0.99429	0.99429	0.99429	0.99429	0.99429
85歳以上→90歳以上	1.00266	1.01023	1.00472	0.99578	0.99350	1.00189	1.00189	1.00189	1.00189	1.00189
	0.51964	0.66022	0.67839	0.67672	0.67237	0.67287	0.67287	0.67287	0.67287	0.67287

←総積

○社人研設定から算出される純定住率設定をベースに、各年齢層の純定住率の積（総積）が2060年までに1.0にまで上昇することを仮定した純定住率は次のとおりです。

○全国的に総移動数が縮小傾向にあることを前提にしつつ、また、パターン②設定のように移動ゼロといった不自然な仮定でもない設定となっています。

○パターン⑥、⑦では、下記の純定住率に基づき、純移動率を逆算出して採用しています。

〈純定住率の積（総積）が2060年に1.0まで上昇する仮定に基づく純定住率設定〉

純定住率・男

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	1.02522	1.01252	1.01474	1.01886	1.02473	1.03008	1.03339	1.03671	1.04005	1.04339	
5～9歳→10～14歳	0.98137	0.97477	0.97620	0.98024	0.98566	0.98922	0.99240	0.99559	0.99879	1.00200	
10～14歳→15～19歳	0.81182	0.85633	0.85684	0.85987	0.86458	0.86754	0.87033	0.87313	0.87594	0.87875	
15～19歳→20～24歳	0.73013	0.80810	0.80901	0.81159	0.81502	0.81766	0.82029	0.82292	0.82557	0.82822	
20～24歳→25～29歳	0.99212	0.99575	0.99609	1.00072	1.00679	1.01016	1.01341	1.01667	1.01993	1.02321	
25～29歳→30～34歳	0.93374	0.94761	0.94937	0.95296	0.95802	0.96139	0.96448	0.96758	0.97069	0.97381	
30～34歳→35～39歳	0.99251	0.98431	0.98588	0.98965	0.99497	0.99839	1.00160	1.00482	1.00805	1.01129	
35～39歳→40～44歳	0.97585	0.97152	0.97277	0.97649	0.98175	0.98528	0.98845	0.99163	0.99482	0.99801	
40～44歳→45～49歳	0.99428	0.98458	0.98531	0.98922	0.99461	0.99830	1.00151	1.00473	1.00796	1.01120	
45～49歳→50～54歳	1.03027	1.02137	1.02255	1.02144	1.02136	1.02858	1.03188	1.03520	1.03853	1.04186	
50～54歳→55～59歳	1.00019	0.99224	0.99771	1.00166	1.00516	1.00675	1.00999	1.01323	1.01649	1.01976	
55～59歳→60～64歳	1.00462	0.99198	1.00130	1.01504	1.02078	1.02044	1.02372	1.02701	1.03031	1.03362	
60～64歳→65～69歳	0.98659	0.97815	0.97938	0.98360	0.98922	0.99239	0.99558	0.99878	1.00199	1.00521	
65～69歳→70～74歳	0.97055	0.96962	0.96863	0.97296	0.97866	0.98248	0.98564	0.98881	0.99199	0.99518	
70～74歳→75～79歳	0.97954	0.97356	0.97705	0.97776	0.98400	0.98807	0.99125	0.99444	0.99763	1.00084	
75～79歳→80～84歳	1.10140	1.07844	1.10072	1.08501	1.06496	1.07396	1.07742	1.08088	1.08435	1.08784	
80～84歳→85～89歳	1.04177	1.03431	1.04665	1.06204	1.05992	1.04388	1.04723	1.05060	1.05398	1.05737	
85歳以上→90歳以上	1.00313	1.00264	0.99710	0.99379	0.99680	1.00886	1.01210	1.01535	1.01862	1.02189	
	0.59458	0.629942	0.667403	0.707091	0.74914	0.793689	0.840887	0.890892	0.943871	1	←総積の設定

純定住率・女

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	0.95144	0.95469	0.95757	0.96169	0.96594	0.96975	0.97368	0.97762	0.98158	0.98556	
5～9歳→10～14歳	0.96342	0.96343	0.96657	0.97082	0.97513	0.97900	0.98296	0.98694	0.99094	0.99495	
10～14歳→15～19歳	0.86788	0.89762	0.89980	0.90334	0.90733	0.91073	0.91442	0.91812	0.92184	0.92557	
15～19歳→20～24歳	0.70953	0.79627	0.79915	0.80228	0.80508	0.80796	0.81123	0.81452	0.81781	0.82113	
20～24歳→25～29歳	1.05625	1.05063	1.05732	1.06221	1.07392	1.07584	1.08020	1.08457	1.08896	1.09337	
25～29歳→30～34歳	1.00989	0.99903	1.00660	1.01148	1.01564	1.02133	1.02547	1.02962	1.03379	1.03798	
30～34歳→35～39歳	0.95251	0.95648	0.96016	0.96422	0.96837	0.97207	0.97600	0.97996	0.98392	0.98791	
35～39歳→40～44歳	0.97608	0.97266	0.97587	0.98006	0.98445	0.98840	0.99240	0.99642	1.00046	1.00451	
40～44歳→45～49歳	0.98825	0.98141	0.98413	0.98829	0.99264	0.99667	1.00071	1.00476	1.00883	1.01291	
45～49歳→50～54歳	0.99565	0.98678	0.98939	0.99348	0.99778	1.00169	1.00575	1.00982	1.01391	1.01801	
50～54歳→55～59歳	0.97059	0.96912	0.97172	0.97572	0.97998	0.98394	0.98792	0.99192	0.99594	0.99997	
55～59歳→60～64歳	0.98283	0.97781	0.98073	0.98496	0.98924	0.99319	0.99721	1.00125	1.00530	1.00937	
60～64歳→65～69歳	1.01376	0.99571	0.99799	1.00521	1.01515	1.02285	1.02700	1.03115	1.03533	1.03952	
65～69歳→70～74歳	0.98195	0.97834	0.97988	0.98423	0.98874	0.99281	0.99683	1.00086	1.00492	1.00899	
70～74歳→75～79歳	0.97237	0.97060	0.97445	0.97672	0.98148	0.98574	0.98973	0.99374	0.99776	1.00180	
75～79歳→80～84歳	1.02569	1.01629	1.03641	1.04219	1.02667	1.02976	1.03393	1.03812	1.04232	1.04654	
80～84歳→85～89歳	0.99349	0.98629	0.99009	0.99680	1.00521	1.00012	1.00417	1.00824	1.01232	1.01642	
85歳以上→90歳以上	1.00266	1.00092	0.99798	0.99324	0.99534	1.00777	1.01185	1.01594	1.02006	1.02419	
	0.51964	0.558842	0.601005	0.646349	0.695114	0.747558	0.803958	0.864614	0.929846	1	←総積の設定

## 2. 人口変動の3要素のシミュレーション

### ①合計特殊出生率と出生数

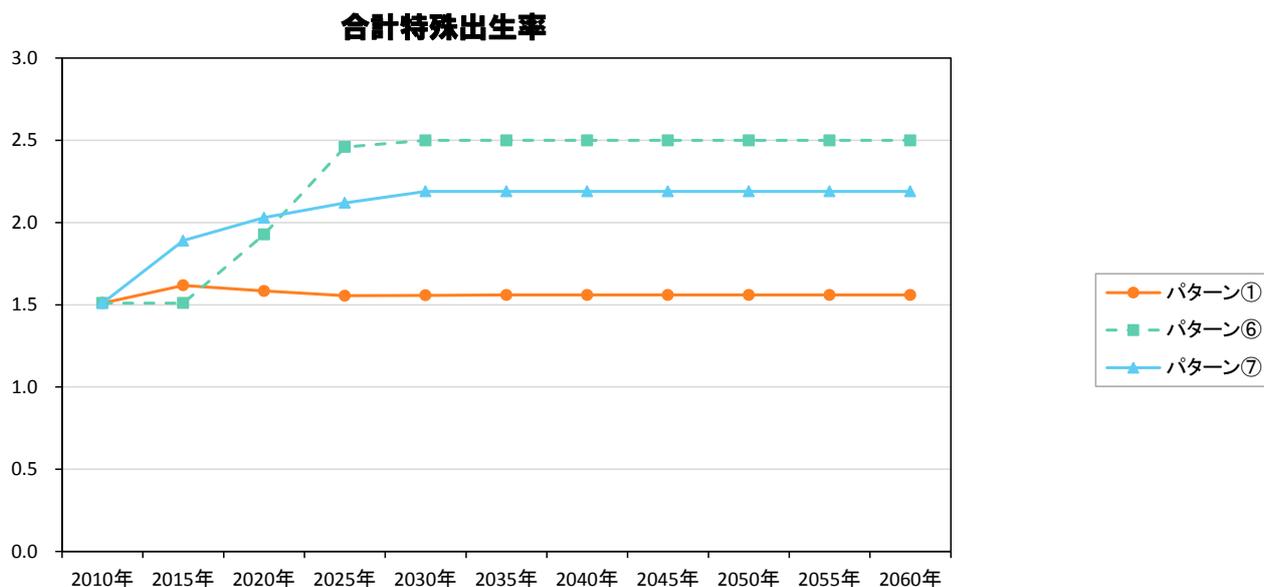
#### [① 合計特殊出生率]

○パターン①では、合計特殊出生率は 2015 年の 1.62 をピークにその後若干減少し、2030 年以降は 1.56 で推移します。

○パターン⑥では、合計特殊出生率が 2030 年に「2.5」まで上昇し、その後は一定となっています。

○パターン⑦では、近年の合計特殊出生率の伸びを勘案し、2030 年の「2.19」をピークに、その後は一定となっています。

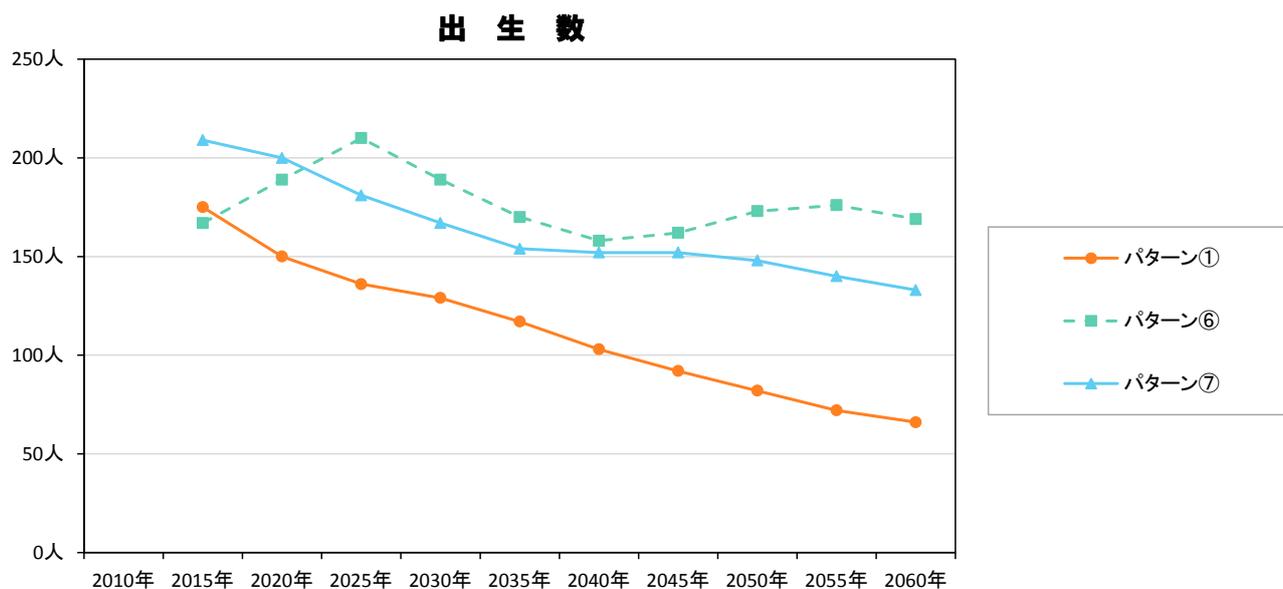
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	1.51	1.62	1.58	1.55	1.56	1.56	1.56	1.56	1.56	1.56	1.56
パターン⑥	1.51	1.51	1.93	2.46	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
パターン⑦	1.51	1.89	2.03	2.12	2.19	2.19	2.19	2.19	2.19	2.19	2.19



## [② 出生数]

- 出生数は、合計特殊出生率と15～49歳の女性人口との関係で変動します。
- パターン①では、合計特殊出生率が2030年以降は1.56で固定されているため、女性人口の減少とともに出生数も徐々に少なくなっています。
- パターン⑥では、合計特殊出生率が2030年までに「2.5」になると仮定していますが、出生数は2025年までは増えるものの、その後は女性人口の減少とともに、徐々に少なくなっています。
- パターン⑦では、パターン⑥に比べ当面の合計特殊出生率の伸びが高いため、出生数はパターン⑥を上回っていますが、2030年の「2.19」をピークに、その後は一定としているため、出生数は徐々に少なくなっています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①		175	150	136	129	117	103	92	82	72	66
パターン⑥		167	189	210	189	170	158	162	173	176	169
パターン⑦		209	200	181	167	154	152	152	148	140	133

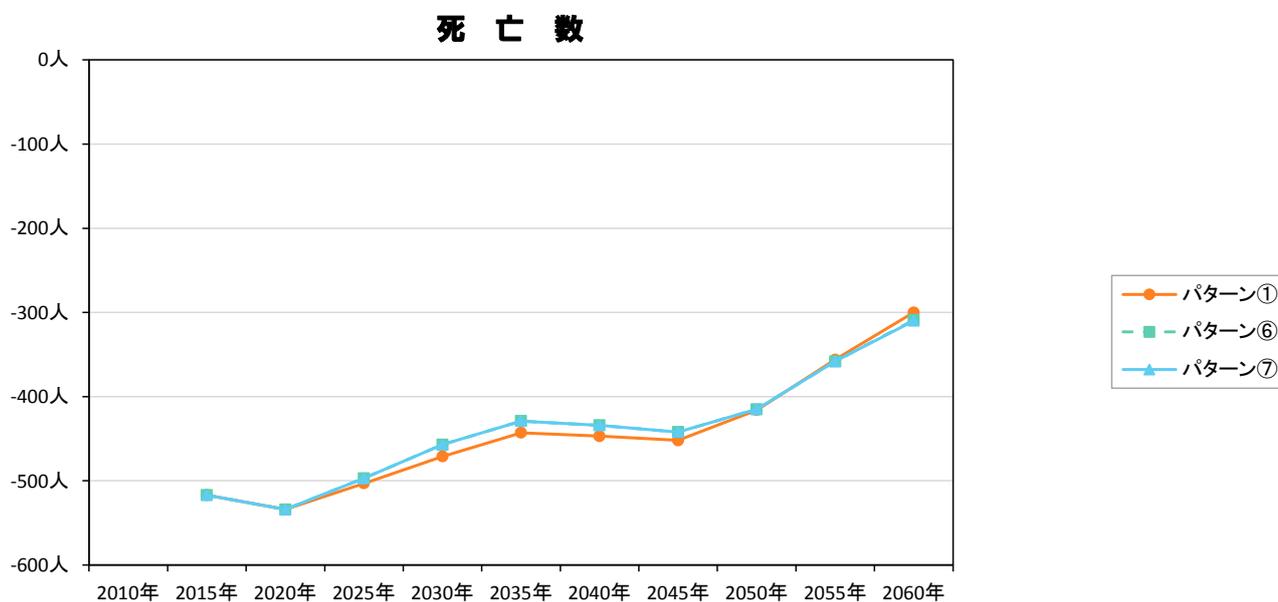


## ②死亡数

○死亡数は、性別・年齢別の生残率を用いて推計しますが、自治体単位での取り組み成果としてその変動を期待することは難しいため、すべてのシミュレーションにおいて同じ生残率を用いています。

○したがって、各シミュレーションによる微少な差異は、出生や移動に伴う人口の差異によるものです。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①		-517	-534	-503	-471	-443	-447	-452	-416	-356	-300
パターン⑥		-517	-534	-497	-457	-429	-434	-442	-415	-358	-309
パターン⑦		-517	-534	-497	-457	-429	-434	-442	-415	-358	-310

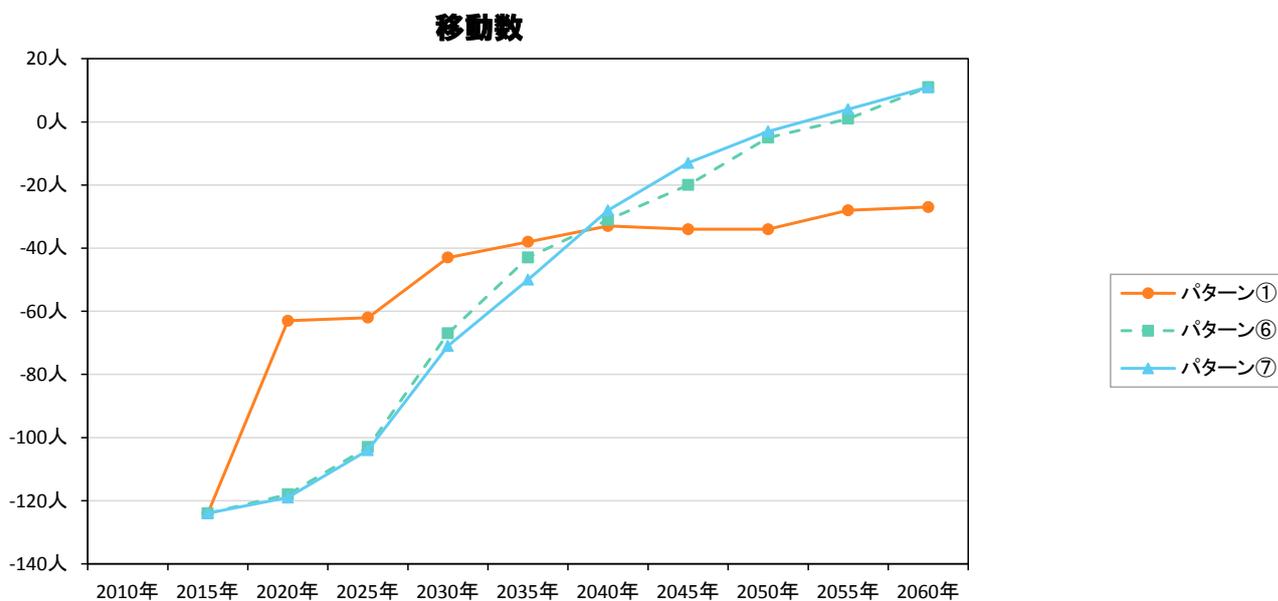


### ③移動数

○パターン①では、全国的な総移動数の縮小傾向を背景に、移動数が縮小していく推計となっています。

○パターン⑥と⑦では、純移動率に基づく純定住率という概念を用いた上で、この純定住率の緩やかな上昇を想定しており、徐々に転出入のバランスがとれ、2055年には転入超になると推計されます。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①		-124	-63	-62	-43	-38	-33	-34	-34	-28	-27
パターン⑥		-124	-118	-103	-67	-43	-31	-20	-5	1	11
パターン⑦		-124	-119	-104	-71	-50	-28	-13	-3	4	11

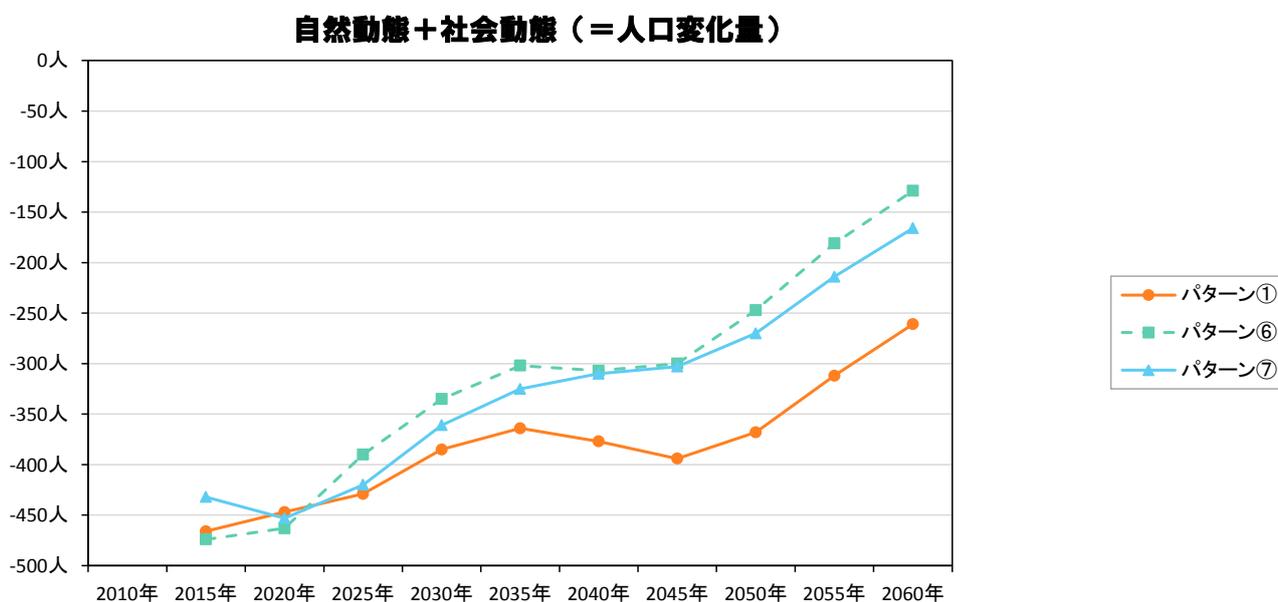


#### ④人口の変化（自然動態＋社会動態）

○ここまでに示した変動3要素を合わせた人口変化量として示すと次のとおりです。（それぞれの5年間における変化量を示したもので、例えばパターン①であれば、2055年から2060年の5年間で、人口が261人減少します、という意味です）

○3つのパターンで比較してみると、パターン①のマイナス変化量が最も多く、パターン⑥が最も少なくなっていますが、いずれも2060年までは「-」の変化量となります。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①		-466	-447	-429	-385	-364	-377	-394	-368	-312	-261
パターン⑥		-474	-463	-390	-335	-302	-307	-300	-247	-181	-129
パターン⑦		-432	-453	-420	-361	-325	-310	-303	-270	-214	-166



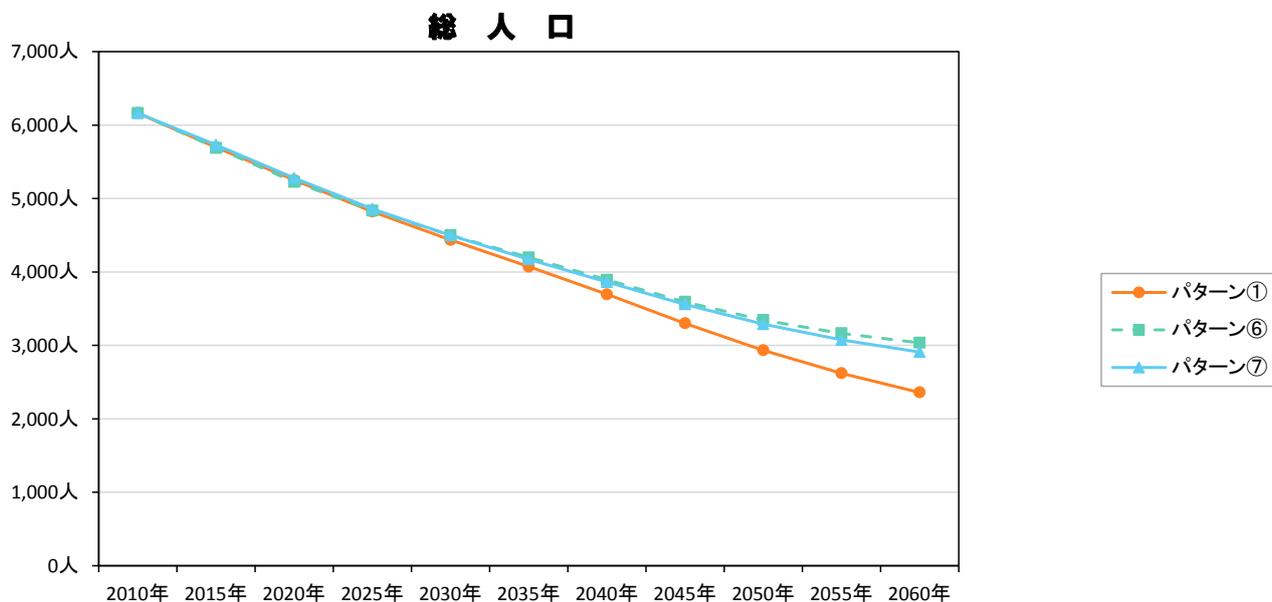
### 3. 人口推計シミュレーション

#### ①総人口

○前記の人口変化量に基づき、将来の総人口を示すと次のとおりとなります。

○2060年では、パターン①が最も少なく2,361人、合計特殊出生率を最大「2.5」、移動ゼロ想定のパターン⑥が最も多く3,036人となっています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361
パターン⑥	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036
パターン⑦	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910



## ②人口構造

### 〔① 年齢層別人口〕

(単位：人)

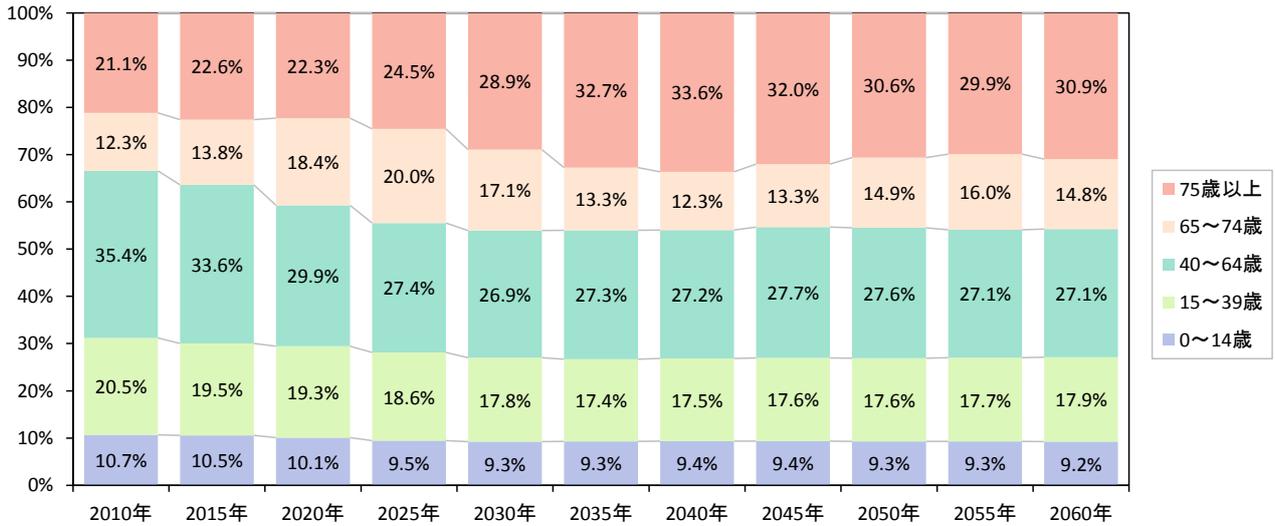
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361
0～14歳	659	601	530	456	411	379	346	309	273	243	218
15～39歳	1,263	1,109	1,015	899	788	709	646	581	517	465	422
40～64歳	2,182	1,914	1,569	1,322	1,194	1,111	1,005	915	809	711	641
65～74歳	757	787	967	963	760	541	456	440	436	420	350
75歳以上	1,303	1,287	1,170	1,182	1,284	1,333	1,243	1,057	899	783	730
パターン⑥	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036
0～14歳	659	593	557	555	578	562	513	489	494	513	523
15～39歳	1,263	1,109	1,005	884	764	722	723	706	690	695	688
40～64歳	2,182	1,914	1,554	1,296	1,166	1,086	988	910	818	721	692
65～74歳	757	787	956	945	743	526	447	436	435	427	365
75歳以上	1,303	1,287	1,155	1,157	1,251	1,304	1,222	1,052	909	809	768
パターン⑦	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910
0～14歳	659	635	609	577	539	497	469	457	453	442	425
15～39歳	1,263	1,109	1,005	884	799	760	737	705	675	648	624
40～64歳	2,182	1,914	1,554	1,296	1,166	1,086	988	910	818	750	728
65～74歳	757	787	956	945	743	526	447	436	435	427	365
75歳以上	1,303	1,287	1,155	1,157	1,251	1,304	1,222	1,052	909	809	768

## [② 年齢層別人口構成比]

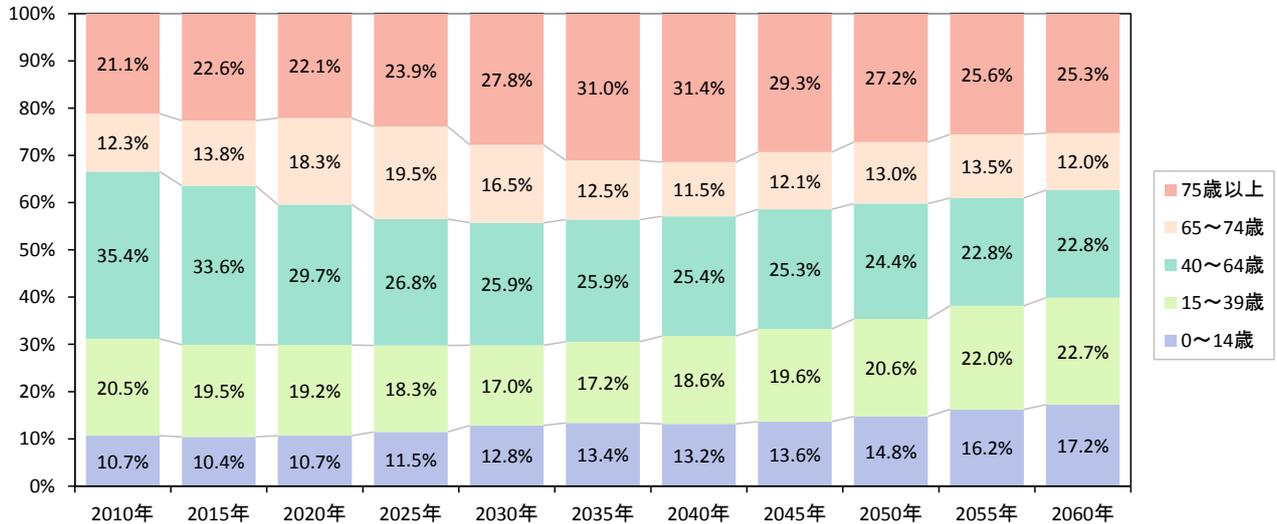
(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361
0～14歳	10.7%	10.5%	10.1%	9.5%	9.3%	9.3%	9.4%	9.4%	9.3%	9.3%	9.2%
15～39歳	20.5%	19.5%	19.3%	18.6%	17.8%	17.4%	17.5%	17.6%	17.6%	17.7%	17.9%
40～64歳	35.4%	33.6%	29.9%	27.4%	26.9%	27.3%	27.2%	27.7%	27.6%	27.1%	27.1%
65～74歳	12.3%	13.8%	18.4%	20.0%	17.1%	13.3%	12.3%	13.3%	14.9%	16.0%	14.8%
75歳以上	21.1%	22.6%	22.3%	24.5%	28.9%	32.7%	33.6%	32.0%	30.6%	29.9%	30.9%
パターン⑥	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036
0～14歳	10.7%	10.4%	10.7%	11.5%	12.8%	13.4%	13.2%	13.6%	14.8%	16.2%	17.2%
15～39歳	20.5%	19.5%	19.2%	18.3%	17.0%	17.2%	18.6%	19.6%	20.6%	22.0%	22.7%
40～64歳	35.4%	33.6%	29.7%	26.8%	25.9%	25.9%	25.4%	25.3%	24.4%	22.8%	22.8%
65～74歳	12.3%	13.8%	18.3%	19.5%	16.5%	12.5%	11.5%	12.1%	13.0%	13.5%	12.0%
75歳以上	21.1%	22.6%	22.1%	23.9%	27.8%	31.0%	31.4%	29.3%	27.2%	25.6%	25.3%
パターン⑦	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910
0～14歳	10.7%	11.1%	11.5%	11.9%	12.0%	11.9%	12.1%	12.8%	13.8%	14.4%	14.6%
15～39歳	20.5%	19.3%	19.0%	18.2%	17.8%	18.2%	19.1%	19.8%	20.5%	21.1%	21.4%
40～64歳	35.4%	33.4%	29.4%	26.7%	25.9%	26.0%	25.6%	25.6%	24.9%	24.4%	25.0%
65～74歳	12.3%	13.7%	18.1%	19.4%	16.5%	12.6%	11.6%	12.2%	13.2%	13.9%	12.5%
75歳以上	21.1%	22.5%	21.9%	23.8%	27.8%	31.2%	31.6%	29.6%	27.6%	26.3%	26.4%

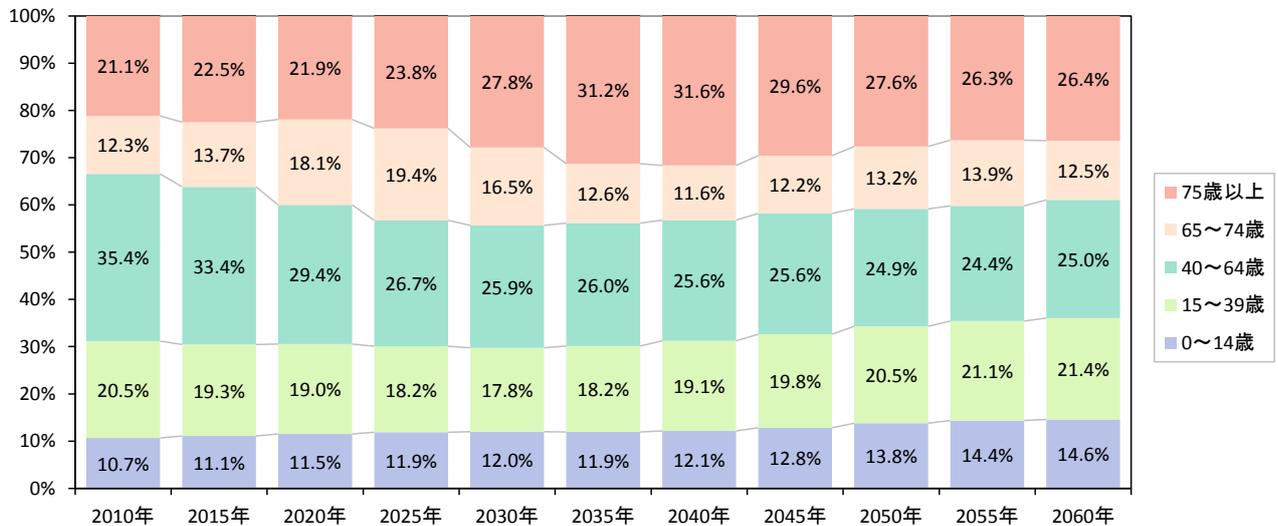
パターン①年齢構成比較



パターン⑥年齢構成比較



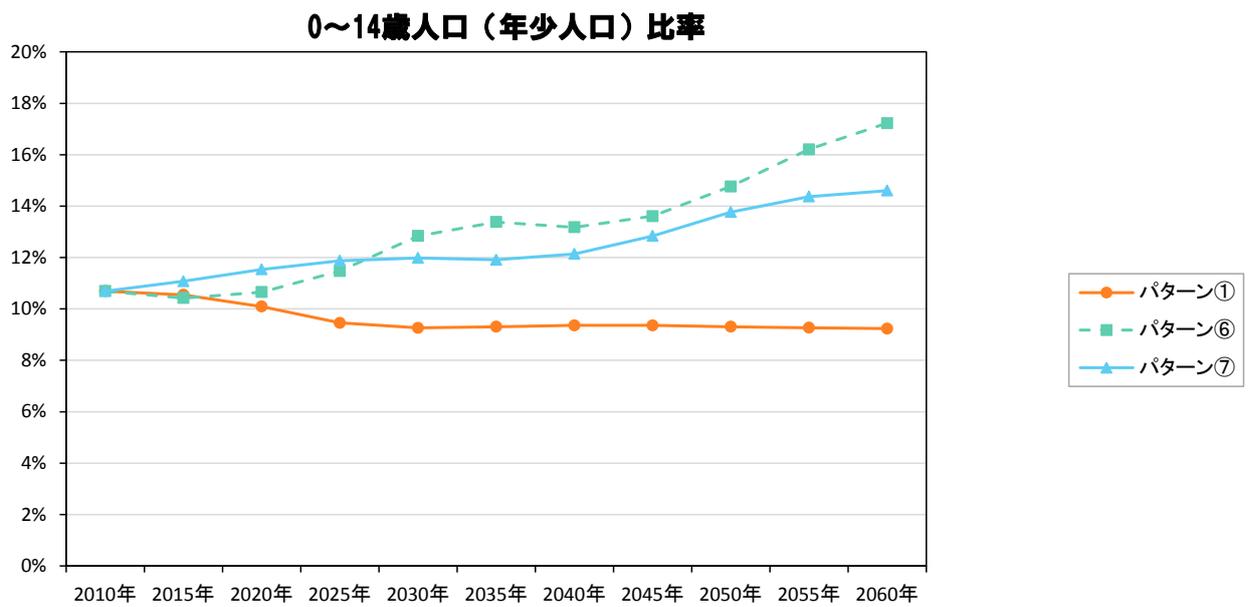
パターン⑦年齢構成比較



### [③ 0～14 歳人口構成比]

○2060 年における 0～14 歳人口比率については、パターン⑥が最も高くなっています。

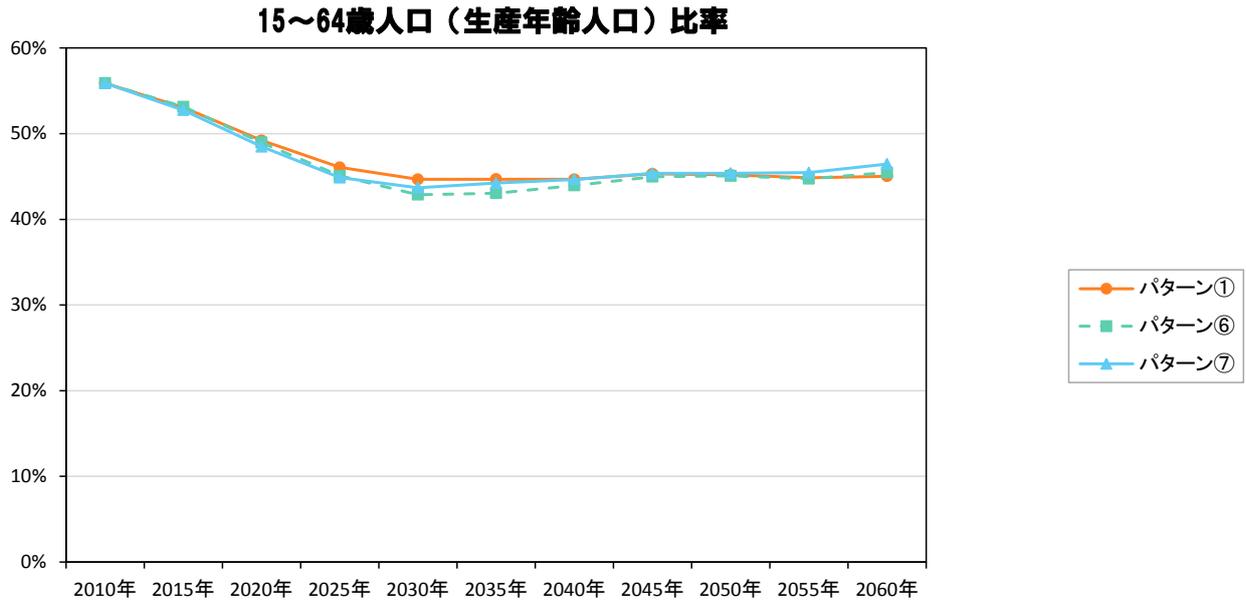
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	10.7%	10.5%	10.1%	9.5%	9.3%	9.3%	9.4%	9.4%	9.3%	9.3%	9.2%
パターン⑥	10.7%	10.4%	10.7%	11.5%	12.8%	13.4%	13.2%	13.6%	14.8%	16.2%	17.2%
パターン⑦	10.7%	11.1%	11.5%	11.9%	12.0%	11.9%	12.1%	12.8%	13.8%	14.4%	14.6%



#### [④ 15～64 歳人口構成比]

○2060年における15～64歳人口比率については、いずれの推計も概ね同じとなっています。

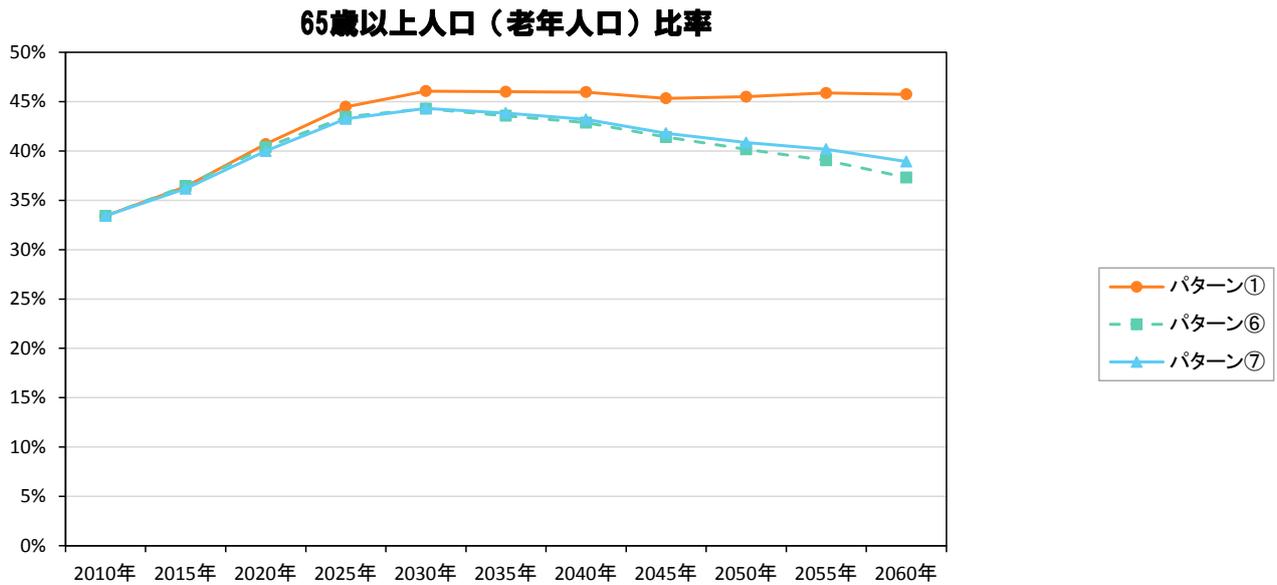
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	55.9%	53.1%	49.2%	46.1%	44.7%	44.7%	44.7%	45.3%	45.2%	44.9%	45.0%
パターン⑥	55.9%	53.1%	49.0%	45.1%	42.9%	43.0%	44.0%	45.0%	45.1%	44.7%	45.5%
パターン⑦	55.9%	52.7%	48.5%	44.9%	43.7%	44.2%	44.7%	45.4%	45.4%	45.4%	46.5%



**[⑤ 65歳以上人口構成比]**

○2060年における65歳以上人口比率については、パターン①が最も高くなっています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	33.4%	36.4%	40.7%	44.5%	46.1%	46.0%	46.0%	45.3%	45.5%	45.9%	45.7%
パターン⑥	33.4%	36.4%	40.4%	43.5%	44.3%	43.6%	42.9%	41.4%	40.2%	39.1%	37.3%
パターン⑦	33.4%	36.2%	40.0%	43.3%	44.3%	43.9%	43.2%	41.8%	40.9%	40.2%	38.9%

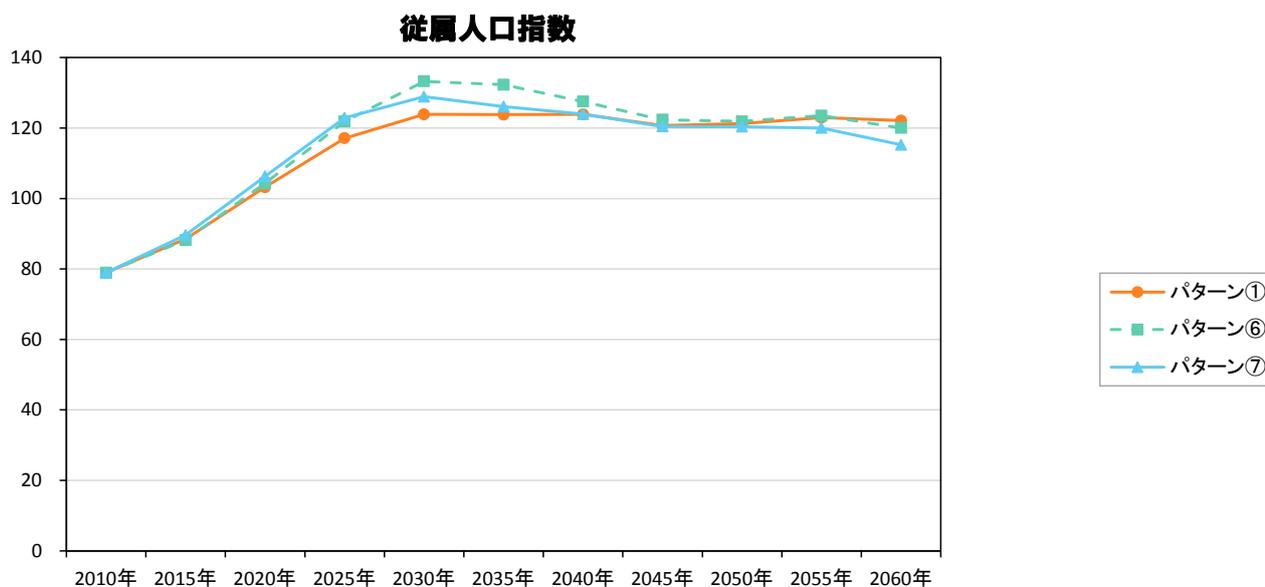


## [⑥ 従属人口指数]

○従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64 歳）に対する年少人口（0～14 歳）、老年人口（65 歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口 100 人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

○2060 年における従属人口指数については、大きな違いはみられませんが、パターン①が最も多くなっています。年少人口も老年人口も、パターン①が実数としてはパターン⑥・⑦より少ないのですが、総人口そのものも最も少なく、生産年齢人口との比較では、最も多くを支えなければならない構造となっています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	78.9	88.5	103.2	117.1	123.9	123.8	123.9	120.7	121.3	123.0	122.1
パターン⑥	78.9	88.2	104.3	121.9	133.3	132.3	127.5	122.3	121.9	123.5	120.0
パターン⑦	78.9	89.6	106.3	122.9	128.9	126.1	123.9	120.4	120.4	120.0	115.2



## 4. シミュレーション別推計結果（再掲）

### パターン①

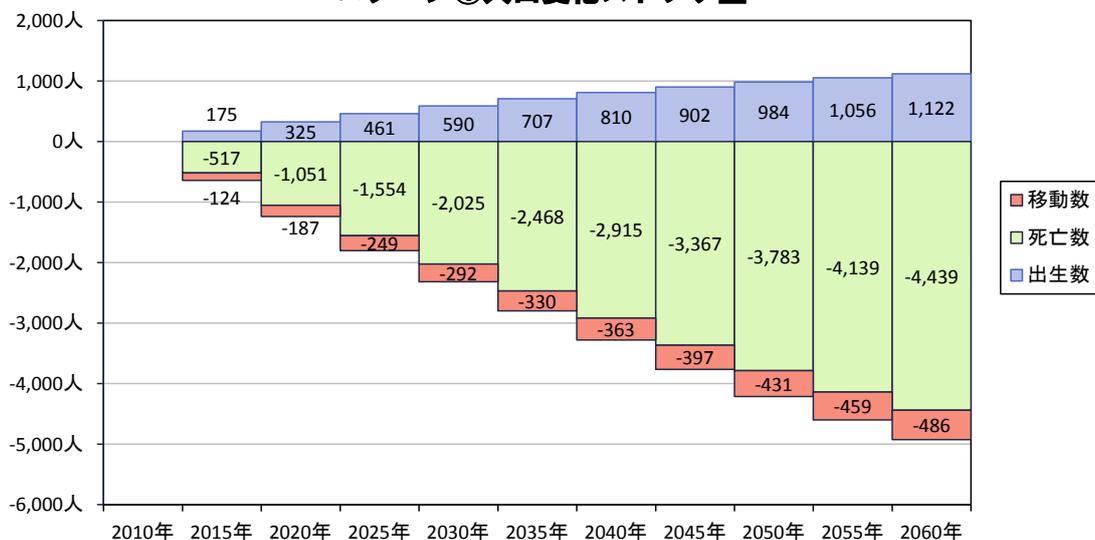
（単位：人）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		175	150	136	129	117	103	92	82	72	66
死亡数		-517	-534	-503	-471	-443	-447	-452	-416	-356	-300
移動数		-124	-63	-62	-43	-38	-33	-34	-34	-28	-27
自然動態＋社会動態		-466	-447	-429	-385	-364	-377	-394	-368	-312	-261
総人口	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361

（単位：人）

積み上げ（変化ストック）	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		175	325	461	590	707	810	902	984	1,056	1,122
死亡数		-517	-1,051	-1,554	-2,025	-2,468	-2,915	-3,367	-3,783	-4,139	-4,439
移動数		-124	-187	-249	-292	-330	-363	-397	-431	-459	-486
自然動態＋社会動態		-466	-913	-1,342	-1,727	-2,091	-2,468	-2,862	-3,230	-3,542	-3,803

パターン①人口変化ストック量



## パターン⑥

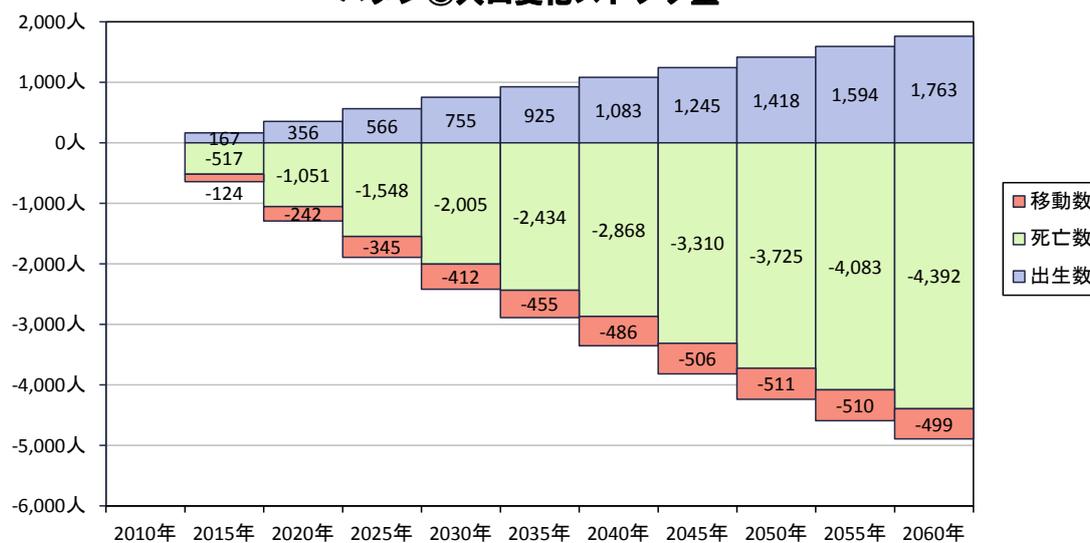
(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		167	189	210	189	170	158	162	173	176	169
死亡数		-517	-534	-497	-457	-429	-434	-442	-415	-358	-309
移動数		-124	-118	-103	-67	-43	-31	-20	-5	1	11
自然動態+社会動態		-474	-463	-390	-335	-302	-307	-300	-247	-181	-129
総人口	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036

(単位：人)

積み上げ(変化ストック)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		167	356	566	755	925	1,083	1,245	1,418	1,594	1,763
死亡数		-517	-1,051	-1,548	-2,005	-2,434	-2,868	-3,310	-3,725	-4,083	-4,392
移動数		-124	-242	-345	-412	-455	-486	-506	-511	-510	-499
自然動態+社会動態		-474	-937	-1,327	-1,662	-1,964	-2,271	-2,571	-2,818	-2,999	-3,128

### パターン⑥人口変化ストック量



## パターン⑦

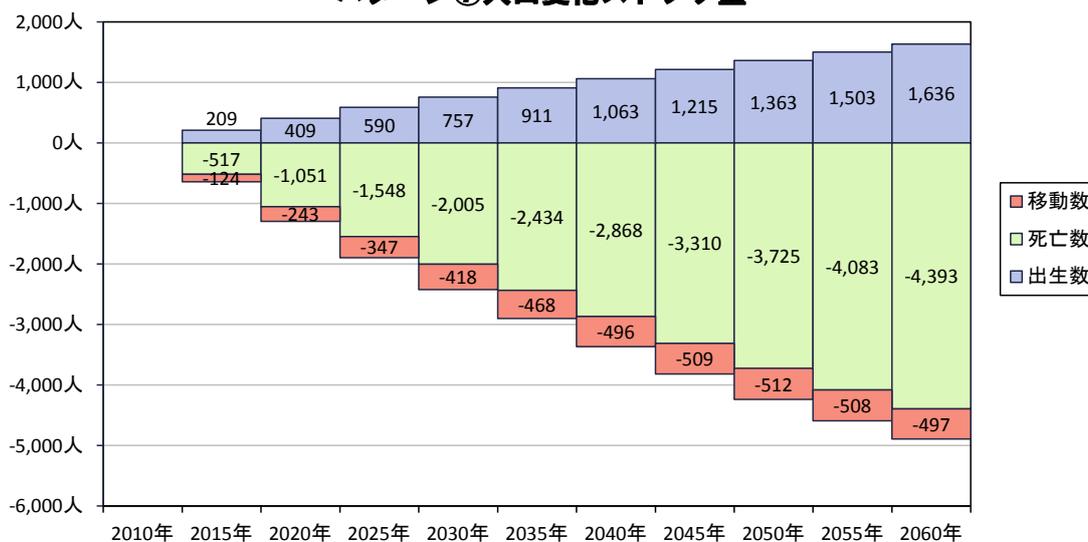
(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		209	200	181	167	154	152	152	148	140	133
死亡数		-517	-534	-497	-457	-429	-434	-442	-415	-358	-310
移動数		-124	-119	-104	-71	-50	-28	-13	-3	4	11
自然動態＋社会動態		-432	-453	-420	-361	-325	-310	-303	-270	-214	-166
総人口	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910

(単位：人)

積み上げ（変化ストック）	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		209	409	590	757	911	1,063	1,215	1,363	1,503	1,636
死亡数		-517	-1,051	-1,548	-2,005	-2,434	-2,868	-3,310	-3,725	-4,083	-4,393
移動数		-124	-243	-347	-418	-468	-496	-509	-512	-508	-497
自然動態＋社会動態		-432	-885	-1,305	-1,666	-1,991	-2,301	-2,604	-2,874	-3,088	-3,254

### パターン⑦人口変化ストック量



1. これまでに示されている舟形町の人口見通し

○社人研\*の推計方法による将来の見通し : 2040年 3,696人 2060年 2,361人

合計特殊出生率 : 2015年 1.51 2030年 1.56 その後は一定  
 社会増減(移動) : 2015年 ▲124人 その後徐々に社会増減の差は少なくなり 2060年 ▲27人

<参考>

○日本創生会議による見通し : 2040年 3,394人

2. 舟形町の「人口将来展望」の検討

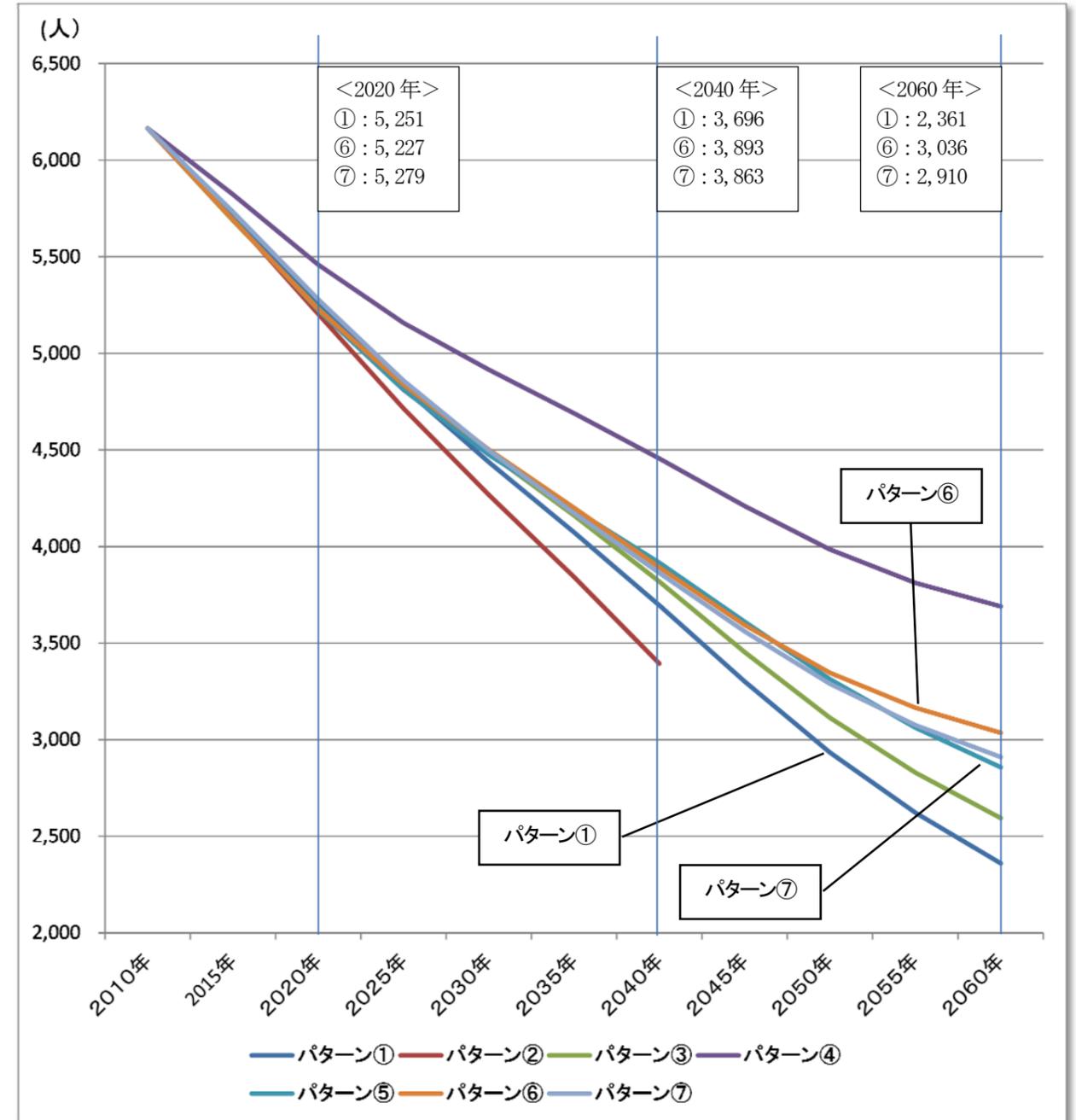
1) 推計の前提

○国のワークシートに基づく推計をおこない、舟形町独自のシミュレーションを加える。

- <国のワークシート>
- ① 社人研推計
  - ② 日本創生会議推計(推計は2040年まで)
  - ③ ①+出生率上昇
  - ④ ③+社会増減が均衡(移動が0)
- <舟形町オリジナル>
- ⑤ 山形県の推計パターン準拠(合計特殊出生率が2.07まで上昇、2040年に移動が0)
  - ⑥ 合計特殊出生率の最大値の設定と2060年には移動が「0」となる
  - ⑦ 合計特殊出生率の現状傾向踏襲と2060年には移動が「0」となる

2) 各推計シミュレーションの設定概要

	合計特殊出生率の考え方	社会動態の考え方
パターン①	2010年「1.51」(以下のパターンも同じ) 2030年以降は「1.56」で推移	国勢調査の実績に基づき、2020年まで定率で0.5倍に縮小し、それ以降は一定
パターン②	パターン①と同じ	社人研の設定に様、移動が縮小するとは考えず、今の傾向が2040年までは続く
パターン③	2030年までに、人口の置換水準「2.1」まで上昇し、その後は維持する	パターン①と同じ
パターン④	パターン③と同じ	社会増減(総移動数)が「0」で推移すると仮定
パターン⑤	2020年「1.60」程度 2030年「1.80」程度 2040年「2.07」程度 その後は一定	国の長期ビジョンの設定に準じ、2040年には社会増減(総移動数)が「0」となり、その後は維持
パターン⑥	2015年以降、一定の比率(年率5.0%)で上昇し、上限を「2.5」とする	2060年には社会増減(総移動数)が「0」となる
パターン⑦	近年の増加傾向を元に将来値を推計し、2030年の「2.19」を上限にそれ以降は一定	パターン⑥と同じ



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	6,164	5,698	5,251	4,822	4,437	4,073	3,696	3,302	2,934	2,622	2,361
パターン②	6,164	5,698	5,204	4,715	4,268	3,842	3,394				
パターン③	6,164	5,687	5,233	4,826	4,484	4,161	3,819	3,454	3,114	2,829	2,594
パターン④	6,164	5,822	5,459	5,157	4,916	4,690	4,456	4,209	3,985	3,812	3,690
パターン⑤	6,164	5,695	5,224	4,811	4,475	4,192	3,916	3,611	3,313	3,062	2,857
パターン⑥	6,164	5,690	5,227	4,837	4,502	4,200	3,893	3,593	3,346	3,165	3,036
パターン⑦	6,164	5,732	5,279	4,859	4,498	4,173	3,863	3,560	3,290	3,076	2,910